平成30年度 鶴見区運営方針(案)

(区長:河村 浩一)

◆計画

区の目標(何をめざすのか)

つながり、ふれあい、みまもり、支えあう、誰もが安心して暮らせるまちの実現

区の使命(どのような役割を担うのか)

一人ひとりの人権が尊重され、誰もが自分らしく安心して暮らすことができるやさしさとぬくもりのある地域社会の実現にむけて、区内の実情や特性に即した施策・事業を総合的に展開する。

平成30年度 区運営の基本的な考え方(区長の方針)

- ・だれもが住みなれた地域で安心して暮らせるよう、地域にかかわるすべての人が、共に生き、共に支え合い、共に生活を楽しむ地域社会の実現に向けて取組みを進める。
- ・地域で子どもたちが健やかに育ち、安心して子育てできるまちの実現に向け、子育てとまなびを応援する。また、区民へ「まなびの場」が提供され、その成果が地域社会の活性化に生かされる社会をめざす。
- ・災害に強いまちをめざし、区民一人ひとりの自助・共助の意識が高まるよう取り組みを進める。また、安全なまちをめざし防犯、交通安全の取組みを進める。
- ・区民が求める情報を確実にわかりやすく提供できるよう、広報紙、ホームページ、フェイスブック等さまざまな媒体を活用し、情報発信に取り組む。
- ・行政財産目的外使用料及び広告料の諸収入の確保の取組みを推進する。

重点的に取り組む主な経営課題(様式2)					
経営課題の概要	主な戦略				
【経営課題1 住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり】	【1-1 地域共生社会の実現】				
関、団体等と連携しながら地域福祉力の向上を図る。また、区	区社会福祉協議会や高齢者、障がい者を支援する関係機関、地域等と連携し「支え手・受け手」という関係を超えて、全ての住民が自分らしく活躍できる地域共生社会をめざす。				
主な具体的取組(30年度予算額)					

【1-1-1 地域福祉力の向上】(予算額 32,525千円)

住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業を進め、地域住民からの相談受付や、生活課題等の解決につなげる。

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題2 子育てとまなびを応援するまちづくり】	【2-1 安心して子育てできる環境づくり】
う、学校、地域、家庭と連携して取り組む。	地域の関係機関や関係団体と連携し、子育て層が交流・情報 交換できる場の設定や相談支援の充実、子育てに関する情 報発信の強化、地域の子育て支援機能の充実など、安心して 子育てできる環境づくりを進める。

主な具体的取組(30年度予算額)

【2-1-1 子育て支援の充実】(予算額 2,077千円)

愛LOVEこどもフェスタの開催や、子育て講演会の開催、子育てマップの作成などを実施し、子育て層の交流の促進や子育て 関連情報の発信など、安心して子育てできる環境づくりを進める。

経営課題の概要	主な戦略				
【経営課題3 安全なまちづくり】	【3-1 災害に強いまちづくり】				
	地域で開催される各種訓練等を充実するとともに、住民の防 災意識の向上を図る。また、区災害対策本部の機能強化を図 る。				
主办目体的职组(20年度圣篇類)					

主な具体的取組(30年度予算額)

【3-1-1 総合的な防災力の強化】(予算額 4,081千円)

地域の自主防災力強化のため、区民、地域と区役所、関係機関、学校等が連携し、避難所開設運営訓練や安全・安心フェスタ、つるみんピック等を行い区全体の防災力の強化に努める。

	主な戦略
【経営課題4 区民への必要な情報の発信】	【4-1 さまざまな媒体を活用した情報発信】
区民の区政への理解や関心が高まるよう、区民への必要な情報を発信する。	区民が求める情報を確実にわかりやすく提供できるよう、さま ざなま媒体を活用し情報発信を行う。

主な具体的取組(30年度予算額)

【4-1-1 広報紙の充実】(予算額 16,478千円)

区の広報媒体のうち最も認知度が高い広報紙について、より多くの区民に紙面について興味を持って読んでもらえるよう、全戸配布に加え配架(設置)場所の増設を行い、広報紙を手にとってもえる機会を増やす。

「市政改革プラン2.0」に基づく取組等(様式3)					
主な取組項目 取組内容					
歳入の確保(諸収入確保の推進)	広報紙の紙面上での広告が積極的に活用されるよう、効果的な勧誘・PRに努める。 平成30年度の行政財産目的外使用料及び広告料の確保に努め、平成31年度の目標額を前倒しで実現する。				

◆自己評価

年間の取組成果と今後取り組みたいこと						

解決すべき課題と今後の改善方向						

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題1

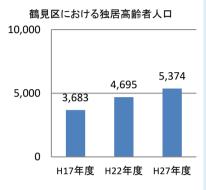
【住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり(地域福祉)】

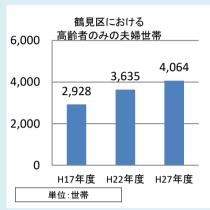
めざすべき将来像(最終的なめざす状態) <概ね10~20年間を念頭に設定>

- ・だれもが住みなれた地域で、健康で自分らしく安心して暮らし続けられる地域社会 ・地域にかかわるすべての人が、共に生き共に支え合い、生活を楽しむ地域社会
- 現状 (課題設定の根拠となる現状・データ)

◆国勢調査





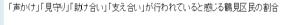


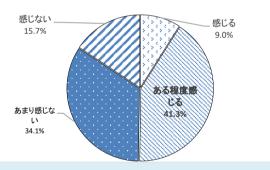
◆H29年度 区民アンケート結果

◆鶴見区認知症高齢者数(平成29年4月1日現在)

◆鶴見区障がい者手帳交付者数(平成29年3月31日現在)

	H27年度	H28年度	H29年度
認知症高齢者数 (在宅)	1,307	1,410	1,460
身体障がい者手帳 交付数	4,934	5,013	5,097
療育手帳交付者数	1,006	1,039	1,082
精神障がい者保健福祉 手帳交付者数	903	955	1,020





要因分析(現状・データから導かれる分析結果) くめざすべき将来像と現状に差が生じる要因>

- ・団塊の世代が65歳を迎え、鶴見区でも高齢者(65歳以上)や、認知症高齢者(65歳以上の認知症を発症している人)が増加してきており、老老介護、孤立死、認知症による徘徊、虐待など、地域の福祉課題は多様化、複雑化、深刻化している。
- ・障がい者手帳の交付数は年々増加している。また、障がい者への支援は生活全般にわたるものであり、 障がいの種別に応じてニーズも多種多様である。
- ・認知症高齢者を含めた高齢者や障がい者が住みなれた地域で住み続けるためには、地域福祉活動や地域の見守り活動等の取組みが必要である。

課題<上記要因を解消するために必要なこと>

- ・地域福祉ネットワークが効果的に機能し、高齢者や障がい者の相談支援体制が整備され、地域や地域包括支援センター、障がい者相談支援センターなどの関係機関との連携が緊密に図られることなどにより地域包括ケアシステムの構築にもつなげていく必要がある。
- ・地域で安心して暮らせるよう、高齢者や障がい者に対する正しい理解の普及が必要である。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

	めざす状態<概ね3~5	5年間を急	意頭に設定>	>	戦略<中期的な取組の方向性>
計画	高齢者や障がい者を含して暮らしていると感じるアウトカムくめざす状態困った時(いざという時)と感じている区民の割合	め誰もが る区民を に助けて	を 自分らしくを 関やす。 とした指標> こくれる人が	安心 いる	区社会福祉協議会や高齢者、障がい者を支援する関係機関や地域等と連携し「支え手・受け手」という関係を超えて、すべての住民が自分らしく活躍できる地域共生社会をめざす。
	50%以上				
自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性 アウトカムの達成状況 戦略の進捗状況		り、継続して推進 いため、戦略を見直す 前年度 個別 A:順調 B:川	全体	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須 今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	具体的取組 1-1-1	【地域福	祉力の向上	28決算	額 29,997 千円 29予算額 30,746 千円 30予算額 31,993 千円
	取組内容			-0次昇	領 29997 千日 2979 領 31.748 千日 3079 第 31.993 千日 業績目標(中間アウトカム)
計画	○住民の身近な相談窓 関係機関との連携を図一 ・各地域に地域福祉コー を配置。 ○つなげ隊へのアドバー 報の提供など、総おこなが 報のディネートをおこなた。 ・専門的知識等を有した。 ワーカーを配置。 ○各地域への助成事業 〇住民同士の助け合い	る。 - ディネーイス やスポーク (ス地域) 。 これ 福祉 活動の 3	-ター(つな! キルの向上 祉推進に係 ティソーシャ 5動への支持	・地域福祉活動への支援として、ネットワーク委員会や百歳体操・サロン事業などの交流の場の充実と事業実施:100件/年以上・地域有償ボランティア活動にかかる派遣数:1,000件/年以上 【撤退基準】・地域福祉活動が全体で年間100件未満の場合は事業を再構築する。・地域有償ボランティア活動の派遣数が年間900件未満の場合は事業を再構築する。 ・地域有償ボランティア活動の派遣数が年間900件未満の場合は事業を再構築する。	
	域資源の発掘、育成を関・地域有償ボランティア		施		相談件数:2,577件/年 ・コミュニティソーシャルワーカー3名配置(区内)による、各地域での地域福祉活動や、地域福祉コーディネーターへの支援。 ・地域福祉活動への支援による、ネットワーク委員会や体操・サロン事業などの交流の場の拡充と事業実施:101件/年 ・地域有償ボランティア会員数:262名 ・地域有償ボランティア派遣数:726件
中	業績目標の達成状況				課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
間振りに	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組 ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取 ③:撤退基準未達成	Q組は予定どおり進払			
返り	戦略に対する取組の有効性		でないため取組を見直す アウトカム未設定(未測定)		
	取組実績				課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須

取組実績 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 業績目標の達成状況 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 ①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった。 ③: 指視未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった。 ③: 撤退基準未達成 ③: 撤退基準未達成 〇: 有効 ×: 有効でないため見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定)

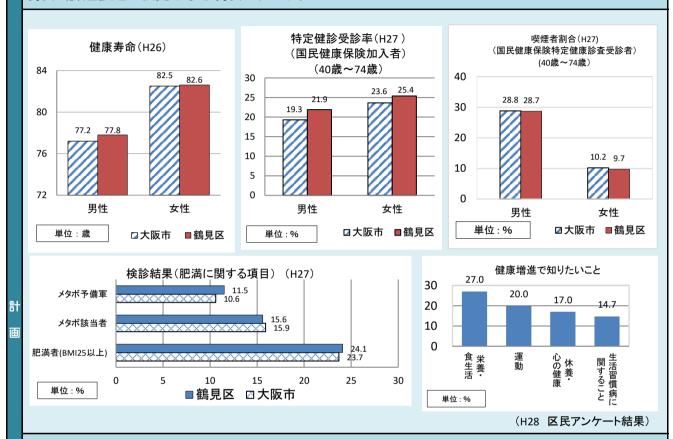
重点的に取り組む主な経営課題

経営課題1

【住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり(健康づくり)】

めざすべき将来像(最終的なめざす状態) <概ね10~20年間を念頭に設定>

- ・だれもが住みなれた地域で、健康で自分らしく安心して暮らし続けられる地域社会・地域にかかわるすべての人が、共に生き共に支え合い、生活を楽しむ地域社会
- 現状 (課題設定の根拠となる現状・データ)



要因分析(現状・データから導かれる分析結果) くめざすべき将来像と現状に差が生じる要因>

- ・鶴見区の健康寿命は、男女とも大阪市の平均より高い。
- ・特定健診受診者(40歳~74歳)の受診率は大阪市平均より高く、喫煙率も低いことから健康への 意識は高いと考えられるが、生活習慣病の要因となる肥満者やメタボ予備軍該当者の割合が、大 阪市平均より高い。
- ・区民の健康づくりの関心は、「栄養・食生活」が最も高く、次いで「運動」となっている。

課題<上記要因を解消するために必要なこと>

健康寿命の延伸には、生活習慣病の改善及び早期発見・早期治療が重要な要素であり、生活習 慣病にかかるリスクが高い肥満者やメタボ予備軍を減少させるため、「食生活」の改善や「運動」の 動機づけを推進していく必要がある。

	めざす状態く概ね3~5年間を念頭に設定>	戦略<中期的な取組の方向性>
計画		生活習慣病の原因である、肥満者やメタボ該当者を減少させるために、「栄養・食生活」「運動」に関する知識を中心に情報を提供する。また、健康づくりが実践できる場を作る施策を地域団体や関係団体と協力して推進する。
	ア:有効であり、継続して推進	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	戦略のアウトカムに対する有効性 イ:有効でないため、戦略を見直す	
트	アウトカムの達成状況 前年度 個別 全体	
램		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
1Ш	A:順調 B:順調でない	
	戦略の進捗状況 a:順調 b:順調でない	
	関係的取組1-2-1 【健康増進意識の向上】 28決算 取組内容	額 516千円 29予算額 326千円 30予算額 327千円 業績目標(中間アウトカム) 「健康まつり」、「食育フェスタ」の参加者650人以上 【撤退基準】 「健康まつり」、「食育フェスタ」の参加者300人未満であれば、事業手法を再構築する。 前年度までの実績 ・食育フェスタ&健康展の開催(参加者650人)・ウォーキング教室の開催・2回(参加者 延べ96人)・健康に関する講演会『睡眠と健康』(参加者123人)
	業績目標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
中間振り返	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成	
返り	戦略に対する取組の有効性 O:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)	
	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況	
É		改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
己評	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退基準未達成	

〇:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)

戦略に対する取組の有効性

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題2

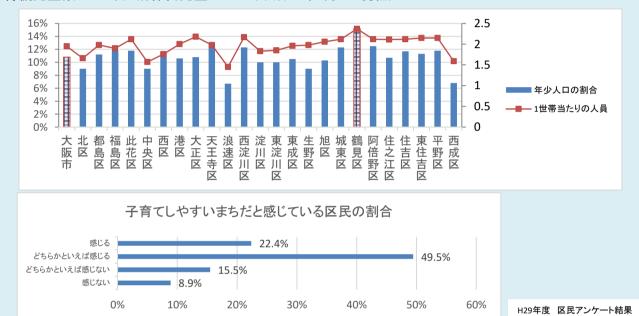
【子育てとまなびを応援するまちづくり(子育て)】

めざすべき将来像(最終的なめざす状態) <概ね10~20年間を念頭に設定>

- ・地域でこどもたちが健やかに育ち、安心して子育てできるまち。
- ・あらゆる「まなびの場」が提供され、その成果が地域社会の活性化に活かされている社会
- 区民一人ひとりが自尊感情を大切にし、お互いを思いやり、支えあい、人権を尊重できる社会
- ・子どもたちが心豊かに力強く生き抜き未来を拓くための学力・体力を身につけながら健やかに成長している。
- ・地域と学校園等が連携し、すべての子どもたちが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)を 実現している。

現状 (課題設定の根拠となる現状・データ)

- ・年少人口(15歳未満)の割合が15.2%、1世帯当たり人員が2.37人と、市内24区中で最も高い。〈平成29年10月現在〉
- 児童虐待の相談件数:134件(平成28年度)
- 待機児童数:11人、入所保留児童:115人(平成29年4月1日現在)



要因分析(現状・データから導かれる分析結果)くめざすべき将来像と現状に差が生じる要因>

- ・年少人口(15歳未満)の割合が市内24区中で最も高い。
- ・子育て世帯が多く居住しているが、家族形態の変化や地域におけるつながりの希薄化などに伴い、孤立している家庭や、子育てに対する不安感や負担感を持っている家庭も今後増加することが見込まれる。
- ・児童相談件数は減少傾向にあるが、児童虐待は依然として発生している。
- 保育ニーズは高い状況にある。

課題<上記要因を解消するために必要なこと>

- ・安心して子育てできる環境づくりのためには、地域・関係機関等との連携を推進する必要がある。
- ・不安感、負担感の解消に向け、つながりづくりや相談窓口の周知に努める必要がある。
- |・児童虐待防止に向け、関係機関と連携を図り対応するとともに、啓発活動を推進する必要がある。
- 保育ニーズの高まりに対しては、関係局と連携し、保育環境の充実に努める必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略2-1

【安心して子育てできる環境づくり】

	めざす状態<概ね3~5	5年間	引を念頭に設定>	戦略く中期的な取組の方向性>
計画	子育てに対する不安感 て子育てできると感じて アウトカム<めざす状態 鶴見区は子育てしやす 民の割合:平成32年度	いる <u>態を</u> いま	区民を増やす。 対値化した指標> ちだと感じている区	地域の関係機関や関係団体と連携し、子育て層が交流・情報交換できる場の設定や相談支援の充実、子育てに関する情報発信の強化、地域の子育て支援機能の充実など、安心して子育てできる環境づくりを進める。
	戦略のアウトカムに対する有効性		有効であり、継続して推進	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
自	アウトカムの達成状況	1:	有効でないため、戦略を見直す 前年度 個別 全体	
己	7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7		133 132 1233 2211	
評価			A:順調 B:順調でない	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
,	戦略の進捗状況	a: J	頁調	
		b:	頁調でない	
計画	具体的取組2−1−1 取組内容 ○関係機関等と連携したい、交流できる場のに要しているのでである。「つるみってリーン」ので、子育てサロン、つどいの・子育では、大育では、大育では、大子育では、大子育では、大子育では、大子育では、大子育では、大子育ででの実施・大況に応じた適切な支持を、大況に応じた適切な支持を、大況に応じた適切な支持を、大況に応じた適切な支持を、大況に応じた。方ででは、「で要して、大沢に応じた。方ででは、「大子育では、「大子育ででのより、大沢に応じた。方が、大子育では、「大子育での保証を、大沢にない。」といる。「大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学を表し、「大学では、「ないは、「大学では、「大学では、「大学では、「大学では、「大学では、「大学では、「ないは、「ないは、「ないは、「ないは、「ないは、「ないいは、「ないは、「な	、「重広」を、「大」では、「大」では、「大」では、「大」では、「大」では、「大」では、「大」では、「大」では、「大」では、「大」では、「大」では、「大」では、「大」では、「大」では、「大」では、「大」では、「大」には、「、」には、「、「、「、」には、「、「、」には、「、「、「、」には、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「	育て層が気軽につど 引催 等への支援 持っている親子等に 保育士による育児相 談 くすくカレンダー」等の の開催	額 1.687 千円 29予算額 1.714 千円 30予算額 2.077 千円 業績目標(中間アウトカム) ・子育て支援事業の利用者で当該事業が役に立ったと答えた人の割合:70%以上 ・子育て世帯で、子育てに関する相談窓口を知っている区民の割合:80%以上 ・子育て世帯で、子育てに関する必要な情報が入手できていると感じている区民の割合:70%以上 【撤退基準】 上記目標が60%未満であれば事業手法等を再構築する 前年度までの実績 ・「愛Loveこどもフェスタ」の開催 1回・「つるみっ子ルーム」の利用率 90%以上・子育て講演会の開催 1回・幼稚園・保育所等情報フェアの開催 1回・幼稚園・保育所等情報フェアの開催 1回
	業績目標の達成状況			課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
中間振り	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 〒 ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 3:撤退基準未達成			
返り	戦略に対する取組の有効性		〇: 有効 ×: 有効でないため取組を見直す 一: 中間アウトカム未設定(未測定)	
	取組実績			課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況			
自己評価	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施(②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施(③:撤退基準未達成			改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
1000				

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題2

【子育てとまなびを応援するまちづくり(まなび)】

めざすべき将来像(最終的なめざす状態) <概ね10~20年間を念頭に設定>

- ・地域でこどもたちが健やかに育ち、安心して子育てできるまち。
- ・あらゆる「まなびの場」が提供され、その成果が地域社会の活性化に活かされている社会
- ・区民一人ひとりが自尊感情を大切にし、お互いを思いやり、支えあい、人権を尊重できる社会
- ・子どもたちが心豊かに力強く生き抜き未来を拓くための学力・体力を身につけながら健やかに成長している。
- ・地域と学校園等が連携し、すべての子どもたちが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)を実現している。

現状 (課題設定の根拠となる現状・データ)

- ・継続して生涯学習活動をしていない市民の割合は、65.3%である。(平成27年度 世論調査「市政に関する市民意識」より)
- ・学校、地域、保護者の教育に対するニーズを把握し、児童生徒のスムーズな学校生活と学力向上等の支援を行っている。
- ・小・中学校に在籍する発達障がい等がある児童・生徒に適切な支援をおこなうため、発達障がいサポーターを学校に配置し、学校生活の支援を行っている。

平成29年度小学校全国学力·学習状況調査

平成29年度中学校全国学力•学習状況調査

	国語A 正答率	国語B 正答率	算数A 正答率	算数B 正答率
全国	74.8	57.5	78.6	45.9
大阪市	71	53	75	42
鶴見区	74	56	78	46

	国語A 正答率	国語B 正答率	算数A 正答率	算数B 正答率
全国	77.4	72.2	64.6	48.1
大阪市	74	68	62	45
鶴見区 75		69	63	46

発達障がいサポーターの申請時間と配置時間

SOUTH A SALES OF HUMANING HOME AND IN							
	申請時間	配置時間					
平成29年度	8,123	3,922					
平成28年度	5,788	2,076					
平成27年度	6,049	2,037					

発達障がいサポーターに対するニーズは依然として高い。

要因分析(現状・データから導かれる分析結果) くめざすべき将来像と現状に差が生じる要因>

- ・生涯学習活動をしていない理由として、「仕事や家事などが忙しくて時間がない」に次いで「きっかけがつかめない」が多い。
- ・小・中学校の学力は大阪市平均よりは高いものの、全国平均よりは低い。
- ・発達障がいサポーターを区内小・中学校に配置しているが、学校からの申請に対して十分な時間数を配置できていない。

課題<上記要因を解消するために必要なこと>

- ・さまざまな学習機会を提供したり、学びの場を知ってもらうことで、主体的に生涯学習活動に取り組む区民を 増やす必要がある。
- ・特色ある学校運営及び学力の向上並びに児童・生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、地域や学校ニーズに即した支援を行っていく必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

1.2.斜低

めざす成果及び戦略2-2 【社会教育の支援】

	めざす状態く概ね3~5年間を念頭に設定>	戦略く中期的な取組の方向性>
	まなひ]を通じたつなかりかできている。 	幅広い層に「まなびの場」を知ってもらえる取組み を実施し、「まなび」を通じたつながりづくりに取り組
計	アウトカム<めざす状態を数値化した指標>	<u></u> င်း。
#	生涯学習の取組みに参加することにより、「まなびを通じたつながりを感じる」と答える区民の割合:平成32年度までに70%以上	

	戦略のアウトカムに対する有効性		7. 行列であり、極利して正正			課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
_		イ:有効でなし	イ: 有効でないため、戦略を見直す			
ᄩ	アウトカムの達成状況		前年度 個別 全体		全体	
┌	f e					
評						今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
7-11	4					
恤			A:順	調 B:順		
	戦略に対する取組の有効性	a:順調 b:順調でない	١			

具体的取組2-2-1 【生涯学習】

28決算額 | 2,257 千円 | 29予算額 | 2,261 千円 | 30予算額 | 2,230 千円

業績目標(中間アウトカム) ○生涯学習大阪計画に基づき、主体的に生涯 学習活動に取り組む区民を増やす。 ・各事業の参加者数:定員の70%以上 (生涯学習推進員連絡会との協働) ・生涯学習の取組みへの参加者のうち、「取組みを ・「生涯学習一日体験 学び舎つるみ」1回 通じて新たな出会いや気づきがあった」と答える区 ・「生涯学習セミナー」1回 民の割合:70%以上 ・「おもてなし茶会」2回 (関係団体等との連携・協働) 【撤退基準】 •「家庭教育支援講座」の開催 上記目標が50%未満であれば、事業手法を再構 築する。 前年度までの実績 【平成29年度実績】事業参加者数(参加率) 生涯学習一日体験 学び舎つるみ 180名(180%) 生涯学習セミナー 102名(51%) おもてなし茶会 200名(100%) 家庭教育支援講座(1月末~2月開催予定)

	業績目標の達成状況		課題と改善策	※左記に「②、③」、	「×」がある場合は必須
中	来順日は少足人が				
間振り	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進 ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり ③: 撤退基準未達成	組は予定どおり進捗していない 取組は予定どおり進捗していない			
返り	戦略に対する取組の有効性	〇:有効 ×:有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)			

	取組実績		課題	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況			
白			改善策	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
12評価	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった [17] ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性 O:有効 ×:有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測)	定)		

28決算額 1,956 千円 29予算額 2,017 千円 30予算額 1,173 千円 取組内容 業績目標(中間アウトカム) 大阪市人権啓発教育・啓発計画に基づき、人権 教育・人権啓発の取り組みを実施し、区民の人 ・各事業の参加者数:定員の70%以上 ・各事業における参加者のうち、「人権に対する考え方が変 権意識の向上を図る。 わった」「新たな気づきがあった」と回答する区民の割合: 70%以上 「人権に関するイベント」を開催 •「校下別人権学習会」を実施 12校下(人権啓 【撤退基準】 発推進員との協働) 上記目標が50%未満であれば、事業手法を再構築する。 ・「街頭啓発」を実施(人権啓発推進員との協働) 前年度までの実績 【平成29年度実績】事業参加者数(参加率) 人権啓発セミナー1回目(9月開催) 80名(40%)、2回目200 名(100%)、校下別人権学習会(7月~3月)、ヒューマンコン サート 200名(100%)、人権映画祭(12月開催) 700名/ (87.5%)、ヒューマンシアター(3月開催予定) 業績日標の達成状況 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 戦略に対する取組の有効性 ン: 有効 ×: 有効でないため取組を見直す 中間アウトカム未設定(未測定) < | かある場合は必須 ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ○:〒別 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) 戦略に対する取組の有効性 具体的取組2-2-3 【環境をキーワードにした取組みの推進】 28決算額 56 千円 29予算額 119 千円 30予算額 180 千円 業績目標(中間アウトカム) 取組内容 ○関係局や企業等と連携しながら、身近な生活 事業への参加者数:定員の70%以上 の中で実践できるエコ活動に関心を持つ機会を 創出する。 環境フェスタの開催 1回 【撤退基準】 環境学習講座の開催 3回 上記目標が40%未満であれば、事業を再構築す る。 前年度までの実績 【平成29年度実績】事業参加者数(参加率) |環境フェスタ(1月開催予定) 環境学習講座3回開催(全44名 58.6%) 業績目標の達成状況 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 戦略に対する取組の有効性 ン: 5.00 ×:有効でないため取組を見直す 中間アウトカム未設定(未測定) ①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成 戦略に対する取組の有効性 ×:有効でないため見直す

中間アウトカム未設定(未測定)

めざす成果及び戦略 2-3【学校教育の支援】

_		
	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>	戦略<中期的な取組の方向性>
	へを拒任し、子校と連携した収組のかでさせい る	区役所が学校や地域、保護者のニーズや意向を 把握して効果的な学校支援を行えるような取組み を進める。
画	アウトカムくめざす状態を数値化した指標>	
	学校や保護者のニーズ、意向を教育行政に反映していると思う校長・教頭の割合:平成32年度までに70%以上	
	映していると思う校長・教頭の割合:平成32年度	

	戦略のアウトカムに対する有効性			、神空物だして 1年2年		課題 ※有効性が「イ」	の場合は必須
ے.	4,600) J1 /3/21C/39 & G/3/C	イ: 有効でなし	イ:有効でないため、戦略を見直す				
E	アウトカムの達成状況		前年度	個別	全体		
⋷							
郭						今後の対応方向 ※有効	性が「イ」の場合は必須
伳			A:順	l 調 B:順			
	戦略の進捗状況 a: 順調 b: 順調でない						

具体的取組2-3-1 【教育支援の充実】

| 28決算額 | 7,535 千円 | 29予算額 | 11,324 千円 | 30予算額 | 14,628 千円 | 業績目標(中間アウトカム)

取組内容 ○学校、地域、保護者の教育に対するニーズを 把握し、児童生徒のスムーズな学校生活と学力 向上等の支援を行う。

- ・教育行政連絡会の開催(学校と区役所による 連絡調整・協議の場) 小・中学校各学期1回
- ・学校協議会への参加 市立幼稚園・小・中・ 高校(20校園)各学期1回
- ・校長会・教頭会への参画 毎月1回
- ・学校カルテ(小・中学校)の作成及び課題解決 に向けた取組み
- ・校長経営戦略支援予算を活用した小・中学校 の支援【教育活動サポート事業・コミュニケー ション能力育成支援事業・漢字能力判定に向け た取組み支援事業・学力向上支援関連事業・民 間事業者を活用した課外学習事業】
- ・発達障がいサポーターを活用した小・中学校の 支援 3,948時間分の配置
- ・各小学校への学習支援員の配置 12校【子どもの学習支援事業】

全国学力・学習状況調査の平均正答率が全国平均を上回る。

区役所からの支援が学力向上につながったと思う 校長・教頭の割合:70%以上

【撤退基準】

上記目標が50%未満であれば、事業手法を再構築する。

前年度までの実績

- ・教育行政連絡会の開催 小・中学校各学期1回 ・学校協議会への参加 市立幼稚園・小・中・高
- 校にて各学期1回 ・校長会・教頭会への参画 毎月1回
- ・学校カルテ(小・中学校)の作成及び課題解決に向けた取組み
- ・教育活動サポーターの配置、英語教材やICT機器の購入、民間事業者を活用した課外学習事業等、校長経営戦略支援予算を活用した小・中学校の支援
- ・発達障がいサポーターを活用した小・中学校の支援 3.922時間分の配置

-	業績目標の達成状況			課題と改善策	※左記に「②、③」、	「×」がある場合は必須
	来模目標の 建 成状況					
振り	 ①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない □:日標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない □: 微温者半表遺成 					
返り	戦略に対する取組の有効性		〇: 有効 ×: 有効でないため取組を見直す : 中間アウトカム未設定(未測定)			

	取組実績				課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況				
É	米級自体の定列の				改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
己評価	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった jii ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった 3: 撤退基準未達成				
ıШ	戦略に対する取組の有効性		〇: 有効 ×: 有効でないため見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定)		

_		28決算	
	取組内容		業績目標(中間アウトカム)
Ī	○区内企業・経営者・スポーツ選手の方々の つ知識や経験談を、区内の小学生に伝えて うため、マッチングを行う。 ・子ども「夢・未来」講座の開催 10校(延べを 回)	きら	子ども「夢・未来」講座を通して、子ども達の興味・ 関心が高まったと回答した教師の割合:80%以上 【撤退基準】 上記目標が50%未満であれば、事業を再構築する。
			前年度までの実績
			【平成29年度実績】 学校で開催した「夢・未来」講座 11校(延べ103 回)
	業績目標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	日 ①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していな ②: 撤退基準未達成		
	② (マイン) 戦略に対する取組の有効性 (マイン) 以前に対する取組の有効性 (マイン) 以前に対する取組の有効性 (マイン) スポート 中間アウトカム未設定(未満して) (大利の) (マイン) (
_	TITO 中继		
	取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況		 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ji ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成		BCA VTOIC・6(M) (・/) NO MADINONA
Î	戦略に対する取組の有効性 O:有効 x:有効でないため見直す -:中間アウトカム未設定(未測	則定)	

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題3

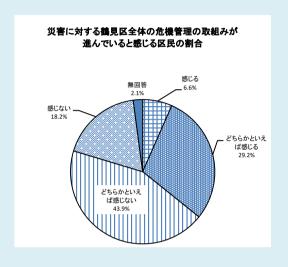
【安全なまちづくり(防災)】

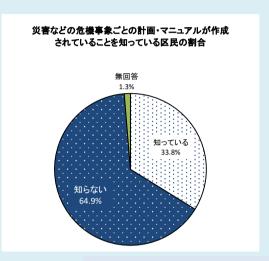
めざすべき将来像(最終的なめざす状態) <概ね10~20年間を念頭に設定>

- だれもが日頃から高い防災意識をもち災害への備えが整っている。
- ・犯罪や交通事故のない、だれもが安全・安心にくらせるまちになっている。

現状 (課題設定の根拠となる現状・データ)

・区内12地域で、自主防災組織による「避難所開設運営訓練」や「防災学習会」、小学生を対象とした「土曜防災授業」等、様々な取組みが行われている。





(H29年度 区民アンケート結果)

要因分析(現状・データから導かれる分析結果) <めざすべき将来像と現状に差が生じる要因>

- ・区地域防災計画について周知が行き届いていない。
- ・区役所・地域が行う様々な取組み、イベントについて、参加者が固定化しており、効果的な周知ができていない。
- ・区内12地域で実施されている、様々な防災の取組みに、実施規模や参加団体等の違いがある。

課題<上記要因を解消するために必要なこと>

- ・自助・共助の視点を盛り込んだ防災活動が、各地域において自発的に行われるための仕組みづくりが必要であり、参加者の固定化も見受けられるため、新たな参加者を呼びこむ必要である。
- ・区地域防災計画など、区が行う取組みについて情報発信の強化の必要がある。
- ・区全体の防災力の強化を図るため、区災害対策本部と各地域の自主防災組織等との連携・強化を強める必要がある。
- ・災害時に活動の担い手として期待できる中高生の訓練等への参加の機会を創出する必要がある。

計

	めざす状態く概ね3/	~5年間を念	頭に設	定>		戦略<中期的な取組の方向性>
	防災意識が高まり、均	也震や風水	害等の	災害	に備	・区民、地域、区役所、関係機関、学校等が連携
	えている区民を増や	す。				した訓練などを通じて区全体の防災対策を進め
						る。
						。 ・地域の自主防災力を強化するための啓発や支
計	アウトカムくめざす	犬態を数値化	ごした指	'標>		援を行う。
画	災害時の避難場所に				いう	・地域コミュニティの活性化を図り、自主防災組
	時に備えている区民				-	織による自助・共助の視点を盛り込んだ防災活
	80%以上	O) D) L . 1 /3	~02 ~ /5	20 (動が活発に行われるための仕組みづくりや支援
	00%以上					を行う。
						・引き続き、区災害対策本部の機能強化に向け
						た研修及び装備品の充実を図る。
	戦略のアウトカムに対する有効性	ア:有効であり	ノ、継続して推	進		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
_		イ:有効でなし	いため、戦略を	見直す		
	アウトカムの達成状況		前年度	個別	全体	
評						今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
価			A:順	調 B:順	<u></u> 調でない	
	戦略の進捗状況	a:順調				
		b:順調でない				

ТШ	A:順調 B:順調でな	1
	戦略の進捗状況 a:順調 b:順調でない	
計画	具体的取組3-1-1 【総合的な防災力の強化	章額 2.257 千円 29予算額 5.080 千円 30予算額 4.081 千円 業績目標(中間アウトカム) ・地域が行う訓練に参加し役立ったと答えた区民の割合:80%以上・区が行うイベント(安全・安心フェスタ、つるみんピック)への参加者:のべ1,200人以上・各地域の訓練参加者:各300人以上 1 撤退基準 地域が行う訓練に参加し役立ったとの回答が
		50%未満であれば事業手法を再構築する。
		前年度までの実績
		【平成29年度実績】 小学校区単位の災害図上訓練 1地域、避難所開設運営 訓練等 12地域(予定)、地域防災計画 1地域、防災マッ プ 1地域、出前講座 10回、安全安心フェスタ 1回(500 人)、つるみんピック 1回(予定)
	業績目標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
中間振り	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成	
返り	戦略に対する取組の有効性 O: 有効 ×: 有効でないため取組を見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定)	
	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況	
自		改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
己評価	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性 O:有効 ×:有効でないため見直す -:中間アウトカム未設定(未測定)	

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題3

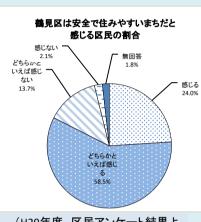
【安全なまちづくり(防犯)】

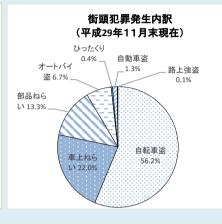
めざすべき将来像(最終的なめざす状態) <概ね10~20年間を念頭に設定>

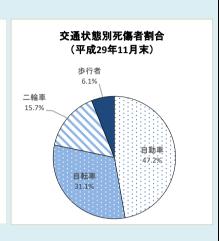
- ・だれもが日頃から高い防災意識をもち災害への備えが整っている。
- ・犯罪や交通事故のない、だれもが安全・安心に暮らせるまちになっている。

現状 (課題設定の根拠となる現状・データ)

◆犯罪・事故等に関するデータ







(H29年度 区民アンケート結果よ

|要因分析(現状・データから導かれる分析結果)くめざすべき将来像と現状に差が生じる要因>

- ・鶴見区の街頭犯罪件数は平成29年11月末現在777件で、昨年同時期の734件に比して約1.1%増加している。特に自動車などに取付けてある部品や付属品が盗難に遭う「部品狙い」が、昨年同時期の60件に比して、103件と約1.7倍の増加となっている。
- ・街頭犯罪件数の半数以上を「自転車盗」が占めている。自転車も含めた交通マナーアップ(特に自転車利用者)が課題となっており、交通状態別死傷者数を見ても約3割が自転車が関わるものとなっている。

課題<上記要因を解消するために必要なこと>

- ・街頭犯罪の約半分以上を占める自転車盗をはじめ、ひったくりや車上狙い等の街頭犯罪を未然に防ぐための取組みを推進し、街頭犯罪発生件数の減少を図っていく必要がある。
- 区民の防犯意識の向上を図り、犯罪を起こしにくい環境づくりが重要である。
- ・自転車利用者のマナーアップについての取組みを、引続き推進する必要がある。

自己

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略3-2 【街頭犯罪・交通事故の少ないまちづくり】

	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>	戦略<中期的な取組の方向性>
計画	安全で住みやすいまちと感じている区民を増やす。 アウトカム<めざす状態を数値化した指標> 安全で住みやすいまちと感じている区民の割合:平成32年度までに85%以上	・鶴見区の街頭犯罪発生件数の減少に向け、区 民、地域、関係機関、事業所などが連携・協働 し、区民のより一層の防犯意識の向上につなが るよう区を挙げての啓発活動を推進する。 ・街頭犯罪の半数以上を占める自転車盗や部品 盗について、重点的に取り組む。 ・放置自転車も含めた自転車利用者のマナー向 上をはじめ、広く交通ルールが守られるよう、学 校等の区内関係機関等と連携し、引き続き交通 安全の普及・啓発活動に取り組む。
	戦略のアウトカムに対する有効性 ア: 有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
自	アウトカムの達成状況 前年度 個別 全体	
己評		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
価	A:順調 B:順調でない	
	戦略の進捗状況 a:順調 b:順調でない	
計画	取組内容 ・防犯カメラの設置 24台 ・防犯プレートの設置 50枚 ・防犯推進委員を中心に、各地域団体や警察署をはじめとする関係機関等が連携した区内一斉防犯活動 12回 ・区役所・警察署・各地域防犯組織(青色防犯パトロール隊、子ども見守り隊、防犯推進委員等)による合同連絡会の実施 1回・自転車の2重ロックを推進するため鍵の取付けキャンペーン 12回 ・ひったくり防止キャンペーン 12回	た防犯対策】 (額 7,769 千円 29予算額 6,296 千円 30予算額 6,182 千円 業績目標(中間アウトカム) ・区で実施している防犯事業が鶴見区の犯罪抑止につながっていると答えた区民の割合:60%以上・街頭犯罪件数 前年比△5%(部品ねらい 前年比△15% 自転車盗 前年比△5%) 【撤退基準】 区実施の防犯事業が犯罪抑止につながっているとの回答が30%以下であれば事業手法を再構築する。 前年度までの実績 ・防犯カメラ(30台)、防犯プレート(50枚)の設置・区内一斉防犯活動 12回・区役所・警察署・各地域防犯組織による合同連絡会 1回・鍵の取付けキャンペーンの実施 12回・砂ったくり防止キャンペーン 12回
中	業績目標の達成状況	ALLEGER ALLEGER OF STATE OF ST
間振り返り	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定とおり進捗 (ii)取組は予定とおり進捗していない ③:撤退基準未達成 〇:有効 ※:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)	
	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
_	業績目標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
10評価	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性 ×: 有効でないため見直す	

【地域・関係機関と連携した交通安全対策】

28決算額 | 1,664 千円 | 29予算額 | 1,980 千円 | 30予算額 | 1,480 千円 業績目標(中間アウトカム) 取組内容 ○交通事故防止や自転車マナーの向上をめざ し、さまざまな啓発活動等を行う。 ・交通事故発生件数における自転車事故の割合 30%以下(発生件数△30件) ・子育て層への交通安全教室の実施 12回 ・区で実施している交通安全対策事業が鶴見区 - 高齢者への交通安全研修会の実施 1回 - 園児への交通安全教室の実施 3回 の交通マナー向上につながっていると答えた区 民の割合:60%以上 ・警察署、区内の高校生と協働した自転車マ ナーアップキャンペーンの実施 4回 ・スケアードストレート学習(スタントマンを活用し 【撤退基準】 自転車事故に関する目標が達成されなければ た交通安全教室)の実施と自転車マナーアップ の取組み 1回 事業手法を再構築する。 ・地域・関係機関と協働した放置自転車啓発活 動 36回 前年度までの実績 子育て層への交通安全教室の実施 12回 高年者交通安全研修会の実施 1回 園児を対象とした交通安全教室の実施 2回 スケアードストレート学習の実施 2回 放置自転車啓発活動 36回 業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 戦略に対する取組の有効性 ×: 有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定) 「×」がある場合は必須 ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成 ×:有効でないため見直す 戦略に対する取組の有効性 :中間アウトカム未設定(未測定)

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題4

【区民への必要な情報の発信】

めざすべき将来像(最終的なめざす状態) <概ね10~20年間を念頭に設定>

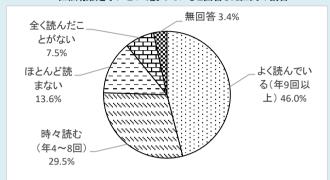
区のさまざまな取組みに関して、区民に必要な情報が届けられ、区民が区政への理解や関心を高 めている。

現状(課題設定の根拠となる現状・データ)

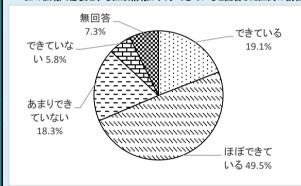
区役所からの情報(イベントやお知らせなど)を入手する媒体

区役所ホームページ 26% 9.6% 区役所フェイスブック 1.1% 区役所ツイッター 0.7% 区広報紙「広報つるみ」 73.6% 小学校で配布している「つるみっ子だより」 22.3% 区役所内のポスターや行政情報コーナーのチ… 9.2% 広報板・町会からの回覧・掲示板 47.8% 友人、知人からの口コミ 20.6% その他 1.2%

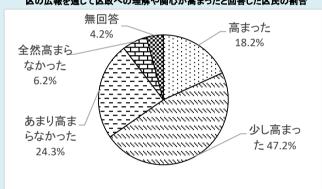
区広報紙を手にとって読んでいると回答した区民の割合



区の広報で必要とする区政情報が入手できていると回答した区民の割合



区の広報を通して区政への理解や関心が高まったと回答した区民の割合



<平成29年度区民アンケート結果>

要因分析(現状・データから導かれる分析結果)くめざすべき将来像と現状に差が生じる要因>

- ・広報紙を区内の全世帯・全事業所に毎月配布することで、広報紙の認知度は高まっているが、広報紙を 手にとってよく読んでいると回答した割合が46.0%(20歳代では16.4%)、区役所からの広報で必要となる情 報が入手できていると感じる割合が68.6%にとどまっている。
- ・区の広報を通して、区政への理解や関心が「高まった」「少し高まった」と回答した割合が65.4%であり、特 に若年層(20歳~29歳)においては45.9%と低い回答率となっており、情報発信内容について工夫する必要
- ・広報紙で充実してほしい記事として、「イベント・催し・講座」と回答した割合が最も高く(47.4%)、「区の施 策や予算」と回答した割合は8.2%にとどまっている。
- ・区役所からの情報を入手する手段として、「広報紙」と回答した割合が最も多いが(73.6%)、若年層(20歳 ~29歳)においては「区役所ホームページ」と回答した割合も多い(29.0%)。

課題<上記要因を解消するために必要なこと>

- ・手にとって読んでもらえる広報紙の魅力的な紙面づくりや設置場所の拡大など、さらなる情報発信の強化 を行う必要がある。
- •年齢層に応じた広報媒体での有効な情報発信を行う必要がある。
- ・区民の興味のある情報にとどまらず、区として確実に届けたい情報が伝わるような紙面づくりを行う必要
- 利用者の視点に立ち、アクセスしやすいHPづくりが必要である。

【さまざまな媒体を活用した情報発信】(区政編 改革の柱2 Ⅳ - ア③)

	めざす状態<概ね3~5	0年间を必頭に設定/	戦略<中期的な取組の方向性>
	きめ細やかな情報発信	が行われていることで	区民が求める情報を確実に分かりやすく提供で
	区政に関する情報が区	民全体に届けられてい	↓ きるよう、広報紙・ホームページ・フェイスブック・
	る。		ツイッター・広報板・庁舎内モニター等さまざまな
			──媒体を活用し情報発信を行う。
	フウレカノノムギオは台	シナット ナンボン	―― 殊体で石川し用形元山で刊り。
計	アウトカムくめざす状態		
늛	区のさまざまな取組みの	(施策・重業・イベントた	
	ど)に関する情報が、区	3役所から届いていると	感
			(B)
	じる区民の割合:平成3	2年度まじに50%以上	
	戦略のアウトカムに対する有効性	ア:有効であり、継続して推進	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	判略のアラトカムに対9 る有効性	イ:有効でないため、戦略を見直す	
自	アウトカムの達成状況	前年度 個別	全体
\equiv	7 7 73公の建筑状況	的年及 個別	
교			
誣			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
価		A:順調 B:順調	etu l
	White a Market No.	a:順調	
	戦略の進捗状況	b:順調でない	
	具体的取組4-1-1	【広報紙の充実】	
	吴仲的取組4-1-1	【仏拟似の元夫】	
		28	央算額 18,802 千円 29予算額 18,450 千円 30予算額 17,111 千円
	职机中南	[20,	
	取組内容		業績目標(中間アウトカム)
	〇区民ニーズの把握に	女め あらゆる世代に	手 広報紙を手にとってよく読んでいる(年9号以上)
	┃に取って読んでもらえる魅力的な広報紙を作成		【 と回答する区民の割合:60%
		DESTATION TRIBLETTY	~ CHH / WEXWHIT :00/0
	する。		
	・全世帯・全事業所への配布 毎月		【撤退基準】
	・広報紙の新設置箇所 5ヵ所増		- 1 6 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
		:) 71 PU L =	- 16記りたいいの本油じめれは 事事を出情望 1
		5万月1年	上記目標が30%未満であれば、事業を再構築
		3개別·恒	上記日標が30%末海であれば、事業を再構業 する。
	(18カ所⇒23カ所)	O기에 년	
		ᄭᄭᅜ	
=-		3万月14日	
計		ᅁᄭᄸᅜ	する。
計画		3万月1年	前年度までの実績
		3万月1年	前年度までの実績
		3万月14日	する。 <u>前年度までの実績</u> 【平成29年度実績】
		3万月14日	前年度までの実績
		3万月14日	する。 <u>前年度までの実績</u> 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布
		3万月1年	する。 <u>前年度までの実績</u> 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月
		3万月14日	する。 <u>前年度までの実績</u> 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月
		3万月14日	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以
		3万月1年	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以
		3万月1年	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む
		3万月1年	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以
		3万月1年	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む
		3万月1年	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む
		3万月1年	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む
		3万万1年	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む
		3万月1年	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む (年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画		3万月1年	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む
画中	(18ヵ所⇒23ヵ所)	3万月1年	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む (年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画	(18力所⇒23力所) 業績目標の達成状況		前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む (年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間	(18カ所⇒23カ所) 業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進	捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む (年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間振	(18力所⇒23力所) 業績目標の達成状況	捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む (年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間	業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進行 ②:目標本達成(見込) (i)取組は予定どおり進行	捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む (年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間振り返	 業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進! ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定とおり進! ③:撤退基準未達成 	捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む (年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間振	業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進行 ②:目標本達成(見込) (i)取組は予定どおり進行	 排 (ii)取組は予定どおり進捗していない 進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 〇:有効 ×:有効でないため取組を見直す 	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む (年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間振り返	 業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進! ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定とおり進! ③:撤退基準未達成 	捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む (年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間振り返	業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進行②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり返 ③:撤退基準未達成 戦略に対する取組の有効性	 排 (ii)取組は予定どおり進捗していない 進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 〇:有効 ×:有効でないため取組を見直す 	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む(年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間振り返	 業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進! ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定とおり進! ③:撤退基準未達成 	 排 (ii)取組は予定どおり進捗していない 進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 〇:有効 ×:有効でないため取組を見直す 	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布 毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以 上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む (年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間振り返	業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進 ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり ③:撤退基準未達成 戦略に対する取組の有効性 取組実績	 排 (ii)取組は予定どおり進捗していない 進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 〇:有効 ×:有効でないため取組を見直す 	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む(年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間振り返り	業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進行②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり返 ③:撤退基準未達成 戦略に対する取組の有効性	 排 (ii)取組は予定どおり進捗していない 進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 〇:有効 ×:有効でないため取組を見直す 	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む(年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間振り返り	業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進 ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり ③:撤退基準未達成 戦略に対する取組の有効性 取組実績	 排 (ii)取組は予定どおり進捗していない 進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 〇:有効 ×:有効でないため取組を見直す 	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む(年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間振り返り	業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進 ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり ③:撤退基準未達成 戦略に対する取組の有効性 取組実績	 (ii)取組は予定どおり進捗していない 進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 〇:有効 ×:有効でないため取組を見直す 一:中間アウトカム未設定(未測定) 	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む(年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間振り返り自己	業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進 ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり ③:撤退基準未達成 戦略に対する取組の有効性 取組実績 薬績目標の達成状況	 排 (ii)取組は予定どおり進捗していない 進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 〇:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) ii)取組を予定どおり実施しなかった 	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む(年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間振り返り	 業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進行 ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり ③:撤退基準未達成 戦略に対する取組の有効性 取組実績 薬績目標の達成状況 ①:目標達成(i)取組は予定どおり実施(排 (ii)取組は予定どおり進捗していない 進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 〇:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) ii)取組を予定どおり実施しなかった 	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む(年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間振り返り自己	業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進 ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進 ②:撤退基準未達成 戦略に対する取組の有効性 取組実績 業績目標の達成状況 ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施(②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(排 (ii)取組は予定どおり進捗していない 進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 〇:有効 ×:有効でないため取組を見直す 一:中間アウトカム未設定(未測定) ii)取組を予定どおり実施しなかった (ii)取組を予定どおり実施しなかった	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む(年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%
画中間振り返り	業績目標の達成状況 ①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進 ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進 ②:撤退基準未達成 戦略に対する取組の有効性 取組実績 業績目標の達成状況 ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施(②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(排 (ii)取組は予定どおり進捗していない 進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない 〇:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) ii)取組を予定どおり実施しなかった 	前年度までの実績 【平成29年度実績】 ・広報紙の作成及び全世帯・全事業所への配布毎月 ・広報紙を手にとってよく読んでいる(年9回以上)と回答した区民の割合:46.0%、時々読む(年4回~8回)と回答した区民の割合:29.5%

取組項目1

【歳入の確保(諸収入確保の推進)】

	取組の方針・目標内容		当年度の取組内容	
		指針」に基づき、媒体別の 獲得し、鶴見区全庁的に税 む。	(取組の内容) 広報紙の紙面上での広告が積極的に活用されるよう効果的な勧誘・PRに努める。	
計画		うを活用した広告主の獲得 5用した広告主の獲得	(目標) 30年度の行政財産目的外使用料及び広告料の 31年度の目標額を前倒しでめざす。	
	_)取組期間中(28~31年度) の確保をめざす。(28実績:		
中間	取組内容の実施見込み	(i)実施見込み(ji)実施できない見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須	
振り返り	目標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み		
自	当年度の取組実績及び目標の達成状況		課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須	
評価		①:目標達成 ②目標未達成		
	取組頂目2 【環境に配慮した変失的な取組(光熱水景の削減)】			

取組項目2

|【環境に配慮した率先的な取組(光熱水量の削減)】

	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
計画	(取組の概要) ・設備機器の日常的なきめ細やかな運転制御 ・職員の意識改革	(取組の内容) ・空調機器の運転制御により、窓口業務閉庁時間に庁舎内全館の一斉停止を行う。 ・空調、照明機器の使用にあたり、職員に対し適正な利用を周知し、意識の向上に努める。 (目標) 30年度の電気使用量を、29年度比で約1%の削減をめざす。

中 取組内容の実施見込み	(i)実施見込み	課題と改善策	※左記が「②」の場合は必須
作	(ii)実施できない見込み		
ッ 返 り	①:達成見込み ②:達成できない見込み		

â	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策	※左記が「②」の場合は必須	
己				
価	①:目標達成			

取組項目3

【人と人とのつながりづくり(区政編 改革の柱1 I-ア)】

	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容	
計画	(趣旨・目的) 近所に住む人同士の日常生活の中で顔見知りになる機会を設けてい く。 (取組の概要) ・近所に住む人同士が集まり、福祉や防災といった身近な課題に気付き日常から顔見知りになりつながっていることの大切さを感じてもらえるよう、防災訓練などの機会を捉えて啓発を行う。 ・若い世代をはじめ多くの人に、つながりづくりの大切さと興味を持ってもらえるよう、事例の共有や取組の情報発信を行う。 ・地縁による団体やグループへの加入を促進するため、地域のつながりの基礎となる自治会・町内会などのつながりづくりのための活動(マンション内での活動を含む)を支援する。 (目標) 〇 身近な地域でのつながりに関して肯定的に感じている区民の割合【平成29年度】 ・30% 【平成30年度】 ・29年度実績値に比べて3%増 【平成31年度】 ・29年度実績値に比べて5%増	 (取組の内容) ・事業の同日開催等、地域で実施する事業間の連携を促進させるなど、参加者の交流を図るとともにつながりづくりを支援する。 (目標) ○ 身近な地域でのつながりに関して肯定的に感じている区民の割合【平成30年度】 ・55% 	
ф		課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須	
ト間振:	取組内容の実施見込み (ii)実施できない見込み		
り返り	目標の達成見込み ①:達成見込み ②:達成できない見込み		
白	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須	
岂			
評			
Ш	①・日標達成 ②・日標未達成		

取組項目4

【地域に根ざした活動の活性化(地縁型団体)(区政編 改革の柱1 Ⅱ-ア)】 自治会・町内会単位の活動への支援

取組の方針・目標内容 当年度の取組内容	
(趣旨・目的) 地域コミュニティの活性化に向けて、身近な単位である自治会・町内会 単位の活動への支援を行う。	
(取組の概要) ① つながりづくりの基盤となる自治会・町内会単位の活動について、課題やニーズの実態を把握し、活動を支援する。 ・町内会単位で実施する防災訓練へで、地域とのつながりづくりを促進する。・転入者向けリーフレット作成し、町内	
日標	
中間 取組内容の実施見込み (i)実施見込み (ii)実施できない見込み	高台は必須
り 返 門標の達成見込み ②:達成できない見込み	
当年度の取組実績及び目標の達成状況 課題と改善策 ※左記が「②」のは	
コサタツ以祖大祠及び日信の連邦の元	ラロは必須
<mark>공</mark>	
評	
①:目標達成 ②:目標未達成	

取組項目5

【地域に根ざした活動の活性化(地縁型団体)(区政編 改革の柱1 Ⅱ-ア)】 担い手不足の解消

	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	(趣旨・目的) 子育てや高齢者への支援、地域の安全・安心の確保、まちの美化、地域の魅力創出など、多様な分野における地域活動について、担い手不足の解消を進めることで活動の活性化をめざす。	
		(取組の内容) ① 気軽に活動に参加できる機会の提供 ・地域活動協議会や地縁型団体等の活動を紹介した転入者向けリーフレットの作成や区広報紙、HP等での地域活動の情報発信を行う。
	② ICTを活用したきっかけづくり ・地縁型団体への参加が少ない若い世代に向けて、活動への参加を呼びかけるため、SNSなどのICTを活用した、地域住民への情報発信や対話を進める取組みを進め、市民同士または市民と行政がつながり、様々な地域課題を市民協働で解決するきっかけづくりを行う。また、ICTを活用して地域課題解決に取り組む「Code for OSAKA」によるCivicTech活動と、地域課題解決に取り組む市民や市民活動団体との橋渡しを行うなど、地域活動への新たな担い手の参画につなぐ。	② ICTを活用したきっかけづくり ・各地域活動協議会にCivic Techの理解を深めてもらうとともに事例紹介を行う。
計画	(目標) ○ 地縁型団体が行う活動に参加している区民の割合 【平成29年度】 ・15% 【平成30年度】 ・前年度以上(具体的な数値は、平成30年度運営方針で設定 【平成31年度】 ・前年度以上(具体的な数値は、平成30年度運営方針で設定	(目標) 【30年度】 〇区ホームページや広報紙などによる情報発信:随時 〇ICTを活用した市民との対話を促進する取組みが新たに創出された件数:1件 〇地縁型団体が行う活動に参加している区民の割合:30%
中間	取組内容の実施見込み (i)実施見込み (ii)実施できない見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
振り返り	日標の達成見込み ②:達成できない見込み	
7	业 在在企图设备中线14.71日本企业中	
自己	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
こ評価		
ш	①:目標達成 ②目標未達成	

取組項目6

【地域に根ざした活動の活性化(地縁型団体)(区政編 改革の柱1 Ⅱ-ア)】 負担感の解消及び活動の充実

	取組の方針・目標内容		当年度の取組内容
	(趣旨・目的) 子育てや高齢者への支援、地域の安全・安心域の魅力創出など、多様な分野における地域 の活動の範囲やステージに応じた支援を行う。 地域の方々が感じている「やらされ感」「負担 意欲をもって活動していただけるよう、委嘱する の実態に即したものとしていくとともに、補助金 的な活動内容まで指定してお願いしているもの 説明し理解していただく。	活動について、それぞれ 。 感」を解消し、問題意識や る活動内容を見直し地域 きと出すことによって具体	
	(取組の概要) ① 補助金についての理解促進 ・補助金を出すことによって具体的な活動内をはないことについて、地域活動協議会の会議の ど、地域活動協議会のメンバーの理解促進を関	の場などで説明を行うな	(取組の内容) ① 補助金についての理解促進 ・地域活動協議会の会議等の場を通して地域活動協議会補助金の趣旨 について説明を行う。
	② 活動の目的の再確認 ・各団体に対して、活動が形骸化することのな確認する機会を作るなどの支援を行う。	よいよう活動目的を改めて	② 活動の目的の再確認・運営委員会や部会の場などを活用し、活動目的を改めて確認する機会を作る。
計画	③ 市民活動総合ポータルサイトの充実・身近な地域課題に取り組む団体などの運営に発信する「市民活動総合ポータルサイト」に、的な活用を促す。		③ 市民活動総合ポータルサイトの充実 ・地域行政連絡会や地域活動協議会の会議の場において、市民活動総合ポータルサイトを紹介するとともに登録の促進を行う。
	④ 活動への参加促進 ・各団体の活動が持続的なものとなるよう、誰や短期間だけ活動に参加)できるための仕組み提供するなどの支援を行う。		④ 活動への参加促進 ・中間支援組織とも連携し、地域活動に気軽に参加できる取組み事例について発表する機会を設け、各地域での活動の参考にしてもらうとともに情報交換する場の提供を行う。
	(目標) ○ 各団体により地域の特性や課題に応じた流感じている区民の割合 【平成29年度】 ・40% 【平成30年度】 ・前年度以上(具体的な数値は平成30年度] ・前年度以上(具体的な数値は平成30年度]	運営方針で設定) 運営方針で設定)	(目標) 【平成30年度】 〇地域活動協議会補助金の趣旨について、地域活動協議会の会議の場などで説明を行った回数:12地域(随時) 〇各団体に対して、活動が形骸化することのないよう活動目的を改めて確認するきっかけとなる機会を作った回数:随時 〇市民活動総合ポータルサイトへの各団体の登録件数:1件 〇各団体に対し、短時間や短期間だけ活動に参加できるなど、誰もが気軽に活動に参加できるための仕組みや工夫に関する情報を提供する回数:随時 〇 各団体により地域の特性や課題に応じた活動が進められていると感じている区民の割合:60%
+-			課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
間		実施見込み 実施できない見込み	
版り返り		権成見込み 権成できない見込み	
	当年度の取組実績及び目標の達成状況		課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
自己评			THE CHANK WINDOWS
ď			
		①:目標達成 ②目標未達成	

取組項目7

【地域を限定しない活動の活性化(テーマ型団体)(区政編 改革の柱1 Ⅱ-イ)】

	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	(趣旨・目的) 活動圏域を限定せず、地域社会の課題に取り組むテーマ型団体に対しては、「市民活動総合ポータルサイト」を活用するなど「Ⅳ多様な市民活動への支援メニューの充実」で整理する支援メニューの情報を適切に提供することで、活動の活性化の支援を充実させる。また、区とテーマ型団体との接点が増加するよう職員意識の向上に取り組む。	
	(取組の概要) ① テーマ型団体への支援窓口の設置 ・多様な活動主体間の交流の場への参画などにより、テーマ型団体とのつながりをつくるとともに、「市民活動総合ポータルサイト」の活用などにより、テーマ型団体も対象とした支援情報の提供ができる窓口を設置する。	(取組の内容) ①テーマ型団体への支援窓口の設置 ・テーマ型団体への支援窓口の周知及び支援情報の提供を行う。
	② ICT利活用による市民協働のきっかけづくり(取組項目2の②再掲) ・SNSなどのICTを活用した、地域住民への情報発信や対話を進める取組みを進め、市民同士または市民と行政がつながり、様々な地域課題を市民協働で解決するきっかけづくりを行う。また、ICTを活用して地域課題解決に取り組む「Code for OSAKA」によるCivicTech活動と、地域課題解決に取り組む市民や市民活動団体との橋渡しを行うなど、地域活動への新たな担い手の参画につなぐ。	② ICTを活用したきっかけづくり(再掲)・取組項目5の②再掲
	(目標) 〇 各区の市民活動支援情報提供窓口への問合せ件数 【平成29年度】 ・窓口の設置 【平成30年度】 ・29年度の窓口への問合せ件数(平年度化したもの)の10%増 【平成31年度】 ・30年度の窓口への問合せ件数の10%増	(目標) 【平成30年度】 〇 市民活動支援情報提供窓口への問合せ件数 5件 〇 ICTを活用した市民との対話を促進する取組みが新たに創出された 件数 : 1件
Ξ		

中間取組内容の実施見込み振	(i)実施見込み (ii)実施できない見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
り返 目標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み	

	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
E		
C		
ē	₩	
ſ		
	①:目標達成 ②:目標未達成	

取組項目8

【地域活動協議会への支援(区政編 改革の柱1 Ⅲ-ア)】
① 活動の活性化に向けた支援(地域実情に応じたきめ細やかな支援)

取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
(趣旨・目的) 地域活動協議会に対し、地域ごとの特性や地域課題を把握したうえで、 地域実情に応じたきめ細やかな支援を実施する。	
(取組の概要) 地域実情に応じたきめ細やかな支援 ・統計データも活用して、地域ごとに、人口動態などの地域特性や地域 課題、地域活動協議会の活動状況や運営上の課題などについて、客観 化・明確化するための「地域カルテ」の作成を支援し、各地域活動協議会 との間で認識共有する。 ・各地域活動協議会に対し、地域カルテに基づくきめ細やかな支援を行うとともに、支援の内容について各地域活動協議会の評価を受け、改善 につなげる。	応じたきめ細やかな支援を行う。
(目標) 〇 地域活動協議会の構成団体が、自分の地域に即した支援を受けることができていると感じた割合 【平成29年度】 ・80% 【平成30年度】 ・前年度以上(具体的な数値は平成30年度運営方針で設定) 【平成31年度】 ・前年度以上(具体的な数値は平成30年度運営方針で設定)	(目標) 〇 地域活動協議会の構成団体が、自分の地域に即した支援を受けることができていると感じた割合 【平成30年度】 ・60%

ф			(i)実施見込み (ii)実施できない見込み ①:達成見込み ②:達成できない見込み	課題と改善策	※左記が「②」の場合は必須
間振	取組内容の実施見込み				
り返り	目標の達成見込み				

	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
ĮΕ		
8		
偛		
	①:目標達成 ②:目標未達成	

取組項目9

【地域活動協議会への支援(区政編 改革の柱1 Ⅲ-ア)】 ① 活動の活性化に向けた支援(地域活動協議会の認知度向上に向けた支援)

	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容		
計画	(趣旨・目的) 地域活動協議会が地域住民に知られるよう支援する。 (取組の概要) 地域活動協議会の認知度向上に向けた支援 ・地域活動協議会の認知度が低い原因を分析したうえで課題を抽出し、地域カルテに記録する。 ・各地域の課題に応じ、学校との連携やICTなども活用しながら、認知度向上に向けた効果的な支援を行う。	(取組の内容) ・地域が行うイベントに出向き、地域活動協議会の活動紹介を行う。また、TSURUMIC AWARDを開催するなど地域活動協議会の認知度向上に向けた取組みを行う。 ※TSURUMIC AWARD・・・ジャンルを問わず各地域活動協議会が行っている活動を広く区民に周知し、認知度向上を目的として実施。 H30年度も引き続き、認知度向上につながる取組みについて表彰を行う。 (H30年度は、SNSいいね争奪戦。各地活協のロゴマーク作成など)		
	(日標) ○ 地域活動協議会を知っている区民の割合 【平成29年度】 ·30% 【平成30年度】 ·35% 【平成31年度】 ·40%	(目標) ○ 地域活動協議会を知っている区民の割合 【平成30年度】 ・35%		
rt		課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須		

中間馬	取組内容の実施見込み	(i)実施見込み (i)実施できない見込み	課題と改善策	※左記が「②」の場合は必須
級 り 返 り	目標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み		

	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
Ē		
昆		
10		
	①:目標達成 ②:目標未達成	

取組項目10

【地域活動協議会への支援(区政編 改革の柱1 Ⅲ-ア)】 ① 活動の活性化に向けた支援(準行政的機能の趣旨についての理解度向上)

	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	(趣旨・目的) 地域活動協議会に対して「準行政的機能」が求められることについて、 地域住民の理解が深まるよう働きかける。	
	(取組の概要) 地域活動協議会に期待する準行政的機能の趣旨についての理解度向 上	(取組の内容) ・地域活動協議会についてのeラーニングを地域を担当する職員に実施 する
	・地域活動協議会に期待する準行政的機能について、地域を担当する 職員全員を対象にeラーニングの実施などにより改めて職員の理解を促 進するとともに、地域活動協議会の役員や構成団体の方をはじめ地域住 民の理解が深まるよう引き続き機会あるごとに積極的に発信する。	・補助金説明会等の場を活用し準行政的機能の理解促進を図る。
計画		
	(目標) ○ 地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に求められている 準行政的機能を認識している割合	(目標) 〇 地域を担当する職員のeラーニング受験率及び理解度 【平成30年度】
	「平成29年度」 - 80% 【平成30年度】	・受験率100% かつ 理解度全員95点以上 ○ 地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に求められている
	・前年度以上(具体的な数値は平成30年度運営方針で設定) 【平成31年度】・前年度以上(具体的な数値は平成30年度運営方針で設定)	準行政的機能を認識している割合 【平成30年度】 ・60%
_		

中間取組内容の実施見込み振	(i)実施見込み (ii)実施できない見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
り 返 目標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み	

	当年度の取組実績及び目標の達成状況	果題と改	善策 ※左記が	「②」の場合は必須
E				
Ē				
10				
	①:目標達成 ②:目標未達			

取組項目11

【地域活動協議会への支援(区政編 改革の柱1 Ⅲ-ア)】 ② 総意形成機能の充実

	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	(趣旨・目的) 地域活動協議会が総意形成機能を期待されていることについて、構成 団体はもとより、地域住民の理解が深まるよう働きかける。 総意形成機能を発揮するために地域活動協議会が備えておくべき要件 が、継続して満たされているかどうかについて、定期的に確認する。	
	(取組の概要) ① 地域活動協議会の認知度向上に向けた支援(取組項目7の再掲) ・地域活動協議会の認知度が低い原因を分析したうえで課題を抽出し、 地域カルテに記録する ・各地域の課題に応じ、学校との連携やICTなども活用しながら、認知 度向上に向けた効果的な支援を行う	(取組の内容) ① 地域活動協議会の認知度向上に向けた支援(取組項目9の再掲) ・取組項目9の再掲
	② 地域活動協議会に期待する総意形成機能の趣旨についての理解度向上 ・地域活動協議会が総意形成機能を期待されていることや、そのため に必要な要件について、地域を担当する職員全員を対象にeラーニング の実施などにより改めて職員の理解を促進するとともに、役員や構成団 体はもとより地域住民の方の理解が深まるよう機会あるごとに積極的に 発信する	② 地域活動協議会に期待する総意形成機能の趣旨についての理解度向上 ・地域活動協議会についてのeラーニングを地域を担当する職員に実施する。 ・補助金説明会等の場を活用し総意形成機能の理解促進を図る。
計画	③ 総意形成機能を発揮するために備えておくべき要件の確認など・大阪市として、地域の総意を求める際には、地域活動協議会に積極的に求めていく必要があるため、地域活動協議会において、総意形成機能を発揮するために備えておくべき要件を満たしているか、行政として定期的に確認するとともに、必要に応じて、各地域活動協議会への支援や関係規定の整備などを行う。	③ 総意形成機能を発揮するために備えておくべき要件の確認など・運営委員会において定期的な確認および助言、指導を行う。
	(目標) 〇 総意形成機能を認識している地域活動協議会の構成団体の割合【平成29年度】 ・各地域活動協議会からの推薦を受けた区政会議の委員を選定【平成30年度】 ・前年度以上(具体的な数値は平成30年度運営方針で設定) 【平成31年度】 ・前年度以上(具体的な数値は平成30年度運営方針で設定)	(目標) ○ 地域を担当する職員のeラーニング受験率及び理解度 【平成30年度】 ・受験率100% かつ 理解度全員95点以上 ○ 地域活動協議会を知っている区民の割合(再掲) 【平成30年度】 ・35%
		○ 総意形成機能を認識している地域活動協議会の構成団体の割合 【平成30年度】 ・地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に求められている 創意形成機能を認識している割合:55%

中		(j)実施見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
間振	取組内容の実施見込み	(ii)実施できない見込み	
り返り	目標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み	

	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
E		
8		
10] ①:目標達成 ②:目標未達成	
	①. 日标定从 ②. 日禄水定州	

取組項目12

【多様な主体のネットワーク拡充への支援(区政編 改革の柱1 Ⅲ-イ)】

	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	(趣旨・目的) 市民活動団体、企業等、行政といった多様な活動主体間の連携協働の 促進に向けて、各地域の実情に応じた支援を行う。 特に、地縁型団体に対しては、他の活動主体との連携協働のメリットが 実感されるよう事例の情報提供を積極的に行う。	
	(取組の概要) ① 交流やコーディネートの場づくりなど ・多様な活動主体間の連携協働に向けた交流やコーディネートの場を、より課題に近いエリアである各地域において提供する。	(取組の内容) ① 交流やコーディネートの場づくりなど ・中間支援組織と連携し、多様な活動主体が連携協働等について交流できる場を提供する。(つるばた会議など)
a	② 地縁型団体への情報提供など ・地縁型団体については、団体の課題やニーズを把握し、他の活動主体との連携協働のメリットが実感されるよう事例の情報提供を行うとともに、適切な支援メニューを選択・提供するなど、新たな連携が創出されるよう支援を行う。	② 地縁型団体への情報提供など・防災・防犯活動等を通じ、地域活動協議会とNPO・企業等が連携する取り組みを推進するとともに各地域で情報の共有を図る。
	(目標) 〇 新たに地域活動協議会とNPO及び企業等とが連携した取組を行った 件数 【平成29年度】 ・5件 【平成30年度】 ・5件 【平成31年度】	(目標) 〇 新たに地域活動協議会とNPO及び企業等とが連携した取組を行った 件数 【平成30年度】 ・5件

p	旧内容の実施見込み (ii)実施見込み (ii)実施できない見込み	課題と改善策	※左記が「②」の場合は必須	
間 取組内容の実施見込み 振				
り返 目標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み			
当年度の取組実績及び目標の達成状況		課題と改善策	※左記が「②」の場合は必須	

	当年度の取組実績及び目標の達成状況		課題と改善策	※左記が「②」の場合は必須
ı				
ī				
Ē	₩			
1	ii			
	①:目標達成 ②:目標未	達成		

取組項目13

【多様な市民活動への支援メニューの充実(区政編 改革の柱1 Ⅳ-イ)】 地域の実態に応じたきめ細やかな支援(まちづくりセンター等による支援)

		取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
		(趣旨・目的) 地域コミュニティの活性化から多様な協働(マルチパートナーシップ)の 推進に対する支援にあたっては、その課題に応じて、まちづくりセンター 等や派遣型地域公共人材などが適切に活用されるよう、活用方策をわか りやすく取りまとめ、活用を促進する。	
	計画	(取組の概要) まちづくりセンター等による支援内容の見直し ・地域活動協議会の立上げを重点的に進めるために行ってきたまちづく りセンター等による支援について、地域活動協議会の自立運営に向けた 支援へと転換していくため、支援内容の見直しを行い、地域の実情に即 した支援を行う。	(取組の内容) ・まちづくりセンターと連携し、地域ごとの支援方策を定め、地域活動協議会の自律運営に向けた支援を行う。
		(目標) ○ まちづくりセンター等の支援を受けた団体が、支援に満足している割合 【平成29年度】 ・75% 【平成30年度】 ・前年度以上(具体的な数値は平成30年度運営方針で設定) 【平成31年度】 ・前年度以上(具体的な数値は平成30年度運営方針で設定)	(目標) ○ まちづくりセンター等の支援を受けた団体が、支援に満足している割合 【平成30年度】 ・80%以上
	中間振	取組内容の実施見込み (ii)実施見込み (ii)実施できない見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
	の返り	目標の達成見込み ②:達成できない見込み	
ı		当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
l	Ė		
	三評価		
		①:目標達成 ②:目標未達成	

取組項目14

【多様な市民活動への支援メニューの充実(区政編 改革の柱1 IV-イ)】 地域の実態に応じたきめ細やかな支援(派遣型地域公共人材による支援)

	取組の方針・目標内容		当年度の取組内容
	(趣旨・目的) 地域コミュニティの活性化から多様な協働(マルチパートナーシップ)の推進に対する支援にあたっては、その課題に応じて、まちづくりセンター等や派遣型地域公共人材などが適切に活用されるよう、活用方策をわかりやすく取りまとめ、活用を促進する。(再掲)		
			(取組の内容) ・まちづくりセンターと連携し、派遣型地域公共人材について区ホーム ページに掲載する。 ・派遣型地域公共人材の活用方法の明確化を図るとともに地域活動協議会に周知・活用を促進する。
	(目標) ○ 派遣型の地域公共人材が活用された件数 【平成29年度】 ・1件 【平成30年度】 ・1件 【平成31年度】		(目標) ○ 派遣型の地域公共人材が活用された件数 【平成30年度】 ・1件
c	h		課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
昆披	り 取組内容の実施見込み 表	(i)実施見込み (ii)実施できない見込み	
y j	2 日標の達成見込み	①:達成見込み	

間 取組内容の美胞兄込み 振	(ii)実施できない見込み			
り返目標の達成見込みり	①:達成見込み ②:達成できない見込み			
当年度の取組実績及び目標の)達成状況	課題と改善策	※左記が「②」の場合は必須	

		当年度の取組実績及び目標の達成状況		課題と改善策	※左記が「②」の場合は必須
Ì	2				
ı	評				
ť	価				
		①:目標達成 ②:目標未過	達成		

取組項目15

【市民活動の持続的な実施に向けた CB/SB化、社会的ビジネス化の支援(区政編 改革の柱1 Ⅳ-ウ)】

	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	(趣旨・目的) 区役所職員がまちづくりセンター等の職員と連携して、持続的な活動の ための財源確保の手法としてのCB/SB化、社会的ビジネス化を的確に支 援する	
計	(取組の概要) CB/SB化、社会的ビジネス化の支援 ・CB/SB化、社会的ビジネス化の支援を進める	(取組の内容) ・まちづくりセンターと連携し、CB/SBに取り組んでいる地域の事例を共有する場を提供し、CB/SB化、社会的ビジネス化の理解を深める取組みを行う。 ・地域活動協議会がCB/SB、社会的ビジネスを取り組むようまちづくりセンターや関係各所と連携し、実現を目指す。
曲	(目標) ○ 区が関与したCB/SB起業件数及び、社会的ビジネス化事業創出件 数 【平成29年度】 ・1件 【平成30年度】 ・2件 【平成31年度】 ・3件 平成29年度~平成31年度の3年間で6件	(目標) ○ 区が関与したCB/SB起業件数及び、社会的ビジネス化事業創出件 数 【平成30年度】 ・3件
d		課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
印間振	取組内容の実施見込み (i)実施見込み (ii)実施できない見込み	WIND AND AND AND AND AND AND AND AND AND A
り返り	目標の達成見込み ②:達成見込み	
	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
自己評価	→ 〒/文ック4人市は大市界/入し口1示ック注:沙グ(ル)	
	①:目標達成 ②:目標未達成	

取組項目16

取組の方針・目標内容

【「ニア・イズ・ベター」に基づく分権型教育行政の効果的な推進 (区政編 改革の柱2 I -イ)】

当年度の取組内容

計画	(趣旨・目的) 職員や校長が分権型教育行政の制度や趣旨に基づいて業務を進めることで、「ニア・イズ・ベター」に基づく分権型教育行政の効果的な推進を図り、学校や地域における教育の活性化につなげる。 (取組の概要) ① 分権型教育行政の効果的な推進に向けて、分権型教育行政の理解促進に向けた取組等、具体的な取組を進める。 (目標) ② 分権型教育行政の制度、趣旨の理解に基づいて業務を進めている教育委員会事務局兼務の区職員、区内小・中学校長の割合【平成29年度】・教育委員会事務局兼務の区職員 50%・区内小・中学校長 50% ② 自校において、学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる区内小・中学校長の割合 ② 委員を務める学校において、学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる区内小・中学校の学校協議会委員の割合 ③ 区内において、学校、地域の実情に応じた教育が行われたと感じる「保護者・区民等の参画のための会議」の委員の割合【平成30年度】・30% 【平成31年度】・40%	(取組の内容) ・分権型教育行政の理解促進に向けて、①教育委員会事務局兼務の区職員対象の研修、②区教育行政連絡会で小・中学校長向けの研修、に取り組む。・学校協議会の運営の補佐・学校との情報共有及び連携した取組みの実施・学校の状況に応じたサポート (目標) 〇 自校において、学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる区内小・中学校長の割合 〇 委員を務める学校において、学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる区内小・中学校の学校協議会委員の割合 〇 区内において、学校、地域の実情に応じた教育が行われたと感じる「保護者・区民等の参画のための会議」の委員の割合 【平成30年度】30%
中間期		課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
振り返り	目標の達成見込み ②:達成見込み ②:達成できない見込み	
	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須

①:目標達成 ②:目標未達成

取組項目17

【区における住民主体の自治の実現(区政編 改革の柱2 Ⅲ-ア)】

	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	(戦略)	(取組の内容)
	区政運営への区民の参画をより一層推進するため、区政会議において	
	区民の意見やニーズを的確に把握するとともに、出された意見への対応	①区政会議の運営についての効果的なPDCAの実施
	について説明責任を十分に果たすことができるよう、より効果的な会議運	【区政会議委員とのより活発な意見交換】
	営に向けたPDCAを実施する。	より活発な意見交換に向け区政会議運営上の課題把握のためのアン
		ケートを区政会議委員に対して実施する。
	(取組の概要)	アンケート結果に基づき会議運営の改善を図るとともに、いただいた意
	①区政会議の運営についての効果的なPDCAの実施	見についての対応状況を区政会議において示す。
	施策・事業の企画段階や事後だけではなく執行段階においても区政会	【区政会議での委員の意見の反映状況のフィードバック】
	議の委員の意見を聴取して必要に応じて反映するなど、区政会議の委員	区政会議における意見への対応状況(予算への反映状況を含む)につ
	とより活発な意見交換を行う。	いて、区政会議において説明する。
	区政運営について、区役所の自己評価に対する意見に加え、委員の評	
	価を直接受ける。	②区政会議と地域活動協議会との連携
	区政会議の委員が区政運営に参画しているという実感がより得られる	地域活動協議会から推薦を受けた区政会議の委員を選定する。
	よう、区政会議において委員から出された意見などについて、区政への	
	反映状況や反映できなかった場合の理由を区政会議の場で明らかにす	(目標)
	る。	①-1 区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、十
= -		分に区役所や委員との間で意見交換が行われていると感じている区政
ĕ	—— A -+ L D L B - M B D M M	会議の委員の割合
_	進するため、各地域活動協議会からの区政会議の委員の選定に向けて	30年度 90%以上
	取り組む。	①-2 区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、適
		切なフィードバックが行われたと感じる区政会議の委員の割合
	(目標)	29年度 90%
	①-1 区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、十	②地域活動協議会からの推薦を受けた区政会議の委員数の維持。
	分に区役所や委員との間で意見交換が行われていると感じている区政	
	会議の委員の割合	
	29年度 60%	
	30年度 73%	
	31年度 73%	
	※31年度の目標は、30年度の結果を踏まえて再検討	
	①-2 区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、適	
	切なフィードバックが行われたと感じる区政会議の委員の割合	
	29年度 60%	
	30年度 70%	
	31年度 70%	
	※31年度の目標は、30年度の結果を踏まえて再検討	
	②地域活動協議会からの推薦を受けた区政会議の委員を選定する。	

Ф	(i)実施見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
間 取組内容の実施見込み	(ii)実施できない見込み	
振		
り返 目標の達成見込みり	①:達成見込み ②:達成できない見込み	

		I===== 1. ¬1; ≠ 7/5
	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
一		
評		
価		
ІШ		
	①:目標達成 ②目標未達成	

取組項目18

【多様な区民の意見やニーズの的確な把握(区政編 改革の柱2 Ⅲ-イ)】

	取組の刀針・日標内谷		
	の事例を参考に様々な工夫を凝ら (取組の概要) ①意見やニーズの把握手法の多角		(取組の内容) 市民の声、意見箱、窓口相談、電話などを通じて寄せられた区民の意 見・提案に対して、区総体として迅速かつ丁寧に対応し、その対応状況を
	断され、ベストプラクティスとして、2 においての実施検討し、ニーズ把持	的な取組であると区長会議において判 14区で共有された内容について、当区 屋の手法の多角化につなげる。	逐次HPで公表する。
計画	(目標) ①区役所が、様々な機会を通じて 感じる区民の割合 29年度 35% 30年度 40% 31年度 40% (28年度 32.4%) ※31年度の目標は、30年度の結	区民の意見やニーズを把握していると 果を踏まえて再検討	(目標) ①区役所が、様々な機会を通じて区民の意見やニーズを把握していると 感じる区民の割合 30年度 45%
中間振	取組内容の実施見込み	(i)実施見込み (ii)実施できない見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
い返り	国標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み	
	当年度の取組実績及び目標の	達成狀況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
自己評価			
		①:目標達成 ②目標未達成	

取組項目19

【さらなる区民サービスの向上(区政編 改革の柱2 Ⅳ-ア)】

	の機能を充実するとともに、来庁者ス、区政情報の発信機能のより一点の概要) ①区民に身近な総合行政の窓口と区民が抱える様々な課題に対して、責任を持って対応するなど、イに、政策課題を解決するために区総合拠点機能を充実させる。 ②庁舎案内や窓口サービスにおけ区民が快適で利用しやすい区役口での応対の向上を図るとともに、なげる。 (目標) ①区役所が、相談や問い合わせ内区の割合 29年度 75% ※30・31年度の目標は、29年度の	としての機能の充実 て、その内容に応じて関係局と連携し シターフェイス機能を充実させるととも 役所が中心となって関係局と連携する るサービス向上 所となるよう、引き続き、庁舎案内や窓 来庁者の声を適切に把握し改善につ は容について適切に対応したと思う区	能なものを実施する。 (目標) ①区役所が、相談や問い合わせ内容について適切に対応したと思う区 民の割合 30年度80% ②「区役所来庁者等に対するサービスの格付け結果」において、☆☆(民間の窓ロサービスの平均的なレベルを上回るレベル)以上を獲得する。
中	即组内应不由共口以上	(i)実施見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
間振	取組内容の実施見込み	(ii)実施できない見込み	
版の返り	目標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み	
	当年度の取組字結及7 ド ロ語で	/李哈彤/J	
自己評価	当年度の取組実績及び目標の	①:目標達成 ②目標未達成	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須

取組項目20

【効率的な区行政の運営の推進(区政編 改革の柱2 Ⅳ-イ)】

	取組の万針・目標内容		当年度の取組内容
		、24 区における事務レベルの底上げ 計画的に標準化・BPRに取り組む。	
		BPRの計画的推進 の影響が大きいものから標準化に取り 業務プロセスを抜本的に見直すBPR	(取組の内容) ①区役所事務についての標準化・BPRの計画的推進 リーンプライアンス、個人情報保護、接遇等に係る研修を効果的に実施する。 ・重要管理ポイントの徹底に関する職員の意識を高める。 ・受付事務に関する不適切な事務処理の発生を防ぐため、事務処理要領を作成する。 ・平成29年度より進めている契約事務の標準化について、「Q&A」の更新及び仕様書のひな型の作成について、引き続き取り組む。
-	革プラン2.0一新たな価値を生み出		限②自主的・自律的なPDCAサイクル徹底の促進 ・事業、イベントごとにPDCAシートを作成し、終了するごとに時機を失することなく振り返りを実施(反省点、改善点をとりまとめ、次年度の事業実施の継続・撤退を判断)
丁画			・事業ごとに進捗管理表を作成し、予算執行を含めた計画的な事業執行を確保 ・所属長からの指示事項について、進捗管理表を作成し随時意見交換を 行い進捗状況を把握
	3		効果的な取組であると区長会議において判断された内容を検討し、可能 なものを実施する。
	※30・31年度の目標は、29年度の)結果を踏まえて設定 て業務に取り組んでいる職員の割合	(目標) ①不適切な事務処理事案の件数(公表ベース) 30年度 29年度件数から10%減
			②日頃からPDCAサイクルを意識して業務に取り組んでいる職員の割合 30年度 100%
中間版	取組内容の実施見込み	(i)実施見込み (ii)実施できない見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
り返り	目標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み	
	当年度の取組実績及び目標の	達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須

①:目標達成 ②目標未達成

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見 (区政会議委員よりいただいたご意見)	対応方針	分類
1	H29.6	「福祉マップ」の作成については、利用者側 に立った作成をするように。	区民と協働で、利用者の視点に立った「福祉 マップ」の作成、配布・周知方法等に取り組ん でいく。	1
2	H29.6	今後、多様な福祉ニーズに対応していくために、地域の実情に応じた住民主体の支援や取組みのための仕組みを区として構築できないか。	現在、市や区においては、さまざまな地域活動に対して支援を行っているが、地域の協力や地域との協働は不可欠であるため、これまで以上に地域と協力・協働できる施策や仕組みづくりについて検討していく。	2
3	H29.6	要援護者の見守りネットワーク強化事業において民生委員と地域活動協議会の連携状況の確認と、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)による地域との関わりを一層図るように。	CSWによる地域との関わりについては、徐々に地域の方々からお声掛けいただくことが多くなった。引き続き、地域の福祉活動に積極的に参加し、連携強化を図っていく。	1 2
4	H29.6	地域活動協議会が自らのホームページ等で 補助金についての会計や決算などを公表す る必要があるのではないか。	公表に至っていない地域活動協議会に対して公表の必要性を説明し、全地域の公表をめざして中間支援組織と連携し取り組んでいく。	1 2
5	H29.6	地域活動協議会への支援については、アクションプランを作成し、目標を設定して行っていく必要があるのではないか。	各地域活動協議会の活動状況や運営上の 課題などを各地域活動協議会、区役所、あち づくりセンターで認識共有し、自律した地域運 営が図れるよう支援を行っていく。	1 2
6	H29.6	住民情報のモニター等を活用し、健康づくり に関する事業などの広報を行うことも効果的 であるのではないか。	住民情報やエレベーター横モニター等を効果 的に活用できるよう掲載内容等について検 討していく。	1
7	H29.6	年間を通じて開催される食生活講座等を土 日に開催できないか。	「プレママクッキング」を休日に試行開催し、 参加者状況等の検証を行う。	1
8	H29.6	鶴見区内の保育所でも病児保育を実施して 欲しい。	こども青少年局と連携し実施事業者を公募しているが、現在、応募がない。今後も応募してもらえるよう関係団体等と調整を進めていく。	3
9	H29.6	児童虐待対応には関係機関の協力が必要で ある。	要保護児童対策地域協議会で情報共有し支援を行っている。今後も関係機関連携のもと児童虐待の予防、早期発見、早期対応に取り組んでいく。	1
10	H29.6	居場所づくりを含めたこどもの貧困対策について、区役所がどう取り組むのか。	来年度実施に向け検討中である。また、区内 で活動している団体の情報を収集し、情報発 信に取り組んでいく。	2
11	H29.6	「幼稚園・保育所等情報フェア」の目的や内容を詳しく教えて欲しい。	保育ニーズ等が引き続き高い状況にある中、子ども・子育て支援法により利用者支援制度が導入されている。利用者と保育等施設のマッチングを進めることにより待機児童解消につなげる。	1

番号	年月	外部評価意見 (区政会議委員よりいただいたご意見)	対応方針	分類
12	H29.6	「高校軽音ライブクリーンプロジェクト」の会場数を今後も増やしていってはどうか。	現在の会場の見直しも含め、検討していく。	2
13	H29.6	小学生が英語活動に興味を持つような支援 を行って欲しい。	英語教材の購入など小学校低学年から英語に親しんでもらうための支援を行っている。今後も学校や地域、保護者のニーズに沿った 支援を行っていく。	1
14	H29.6	「鶴見区防犯の日」一斉行動に鶴見警察署 へ参加依頼をしてほしい。また、各種団体も 参加するよう要請して欲しい。	鶴見警察署へ依頼し、参加および情報提供等の連携について確認した。各種団体へは各地域の実情を確認しながら働きかけていく。	1
15	H29.6	防犯啓発活動に青色防犯パトロール車を活 用してはどうか。	パトロール時、防犯に関する啓発の文言を入れたマグネットシートを貼るとともに放送を行っている。今後も幅広く啓発を行っていく。	1
16	H29.6	スケアードストレート学習について、参加者の 掘り起しが不十分である。また、動画配信等 を行い広く周知してはどうか。	スケアードストレート学習時はこども会など各種団体に参加案内を行う。また、エレベーター横モニターなど情報発信が可能な媒体を活用し広く周知・啓発を行う。	1
17	H29.6	駐輪場マップは放置自転車対策に有効に活用してほしい。また、区内民間駐輪場の掘り起しが必要ではないか。	駐輪場マップは放置自転車キャンペーン等で配布している。また、区内民間駐輪場はホームページで募集を行う他、区職員が確認作業を行っている。	1
18	H29.6	区役所がリーダーシップを取って、災害発生 時に災害時避難所となる学校の活用に取り 組んで欲しい。	災害時に避難所運営の中心となる自主防災組織(避難所運営委員会)に対して、教室等の活用方法の提案を行うなど具体的な活用方法が検討できるよう学校・地域と連携し取り組んでいく。	2
19	H29.6	災害時の備蓄物資について、協定事業所数を増やすとともに、あらかじめ配給方法、手 段などを決めておく必要があるのではない か。	区としても区内事業所に対して防災協定締結 の働きかけを行っていくとともに引き続き災 害時協力貢献事業所・店舗の募集行い、備 蓄物資の確保に努める。また、配給方法等 の検討も行っていく。	1
20	H29.6	区の防災力向上に大きな役割を果たしている「つるみんピック」の引き続きの取組みと、 来場者増加の工夫をして欲しい。	「つるみんピック」がより一層実践的な内容となるよう、消防署と連携し継続して実施していく。また、事前周知等も行うなど来場者を増やす工夫を行っていく。	1
21	H29.6	震災時に広報担当を置くなどし、広く情報発 信をしていくべきではないか。	情報発信は鶴見区災害対策本部の役割の 一つとして位置付け、職員訓練にも様々な情 報発信方法を取り入れるとともに、体制づくり を行っていく。	1
22	H29.6	これまでの環境に関するイベントにおいて、参加者が少なかったり、内容が少々高度で専門的すぎる時もあったのではないか。身近な環境学習として、咲くやこの花館とコラボレーションして、園芸の講習会を実施してみるのはどうか。	環境イベントについては、民間企業の協力を得て親子で楽しみながら環境の大切を感じてもらえる内容で実施しているが、今後とも多くの集客が図れるよう検討していく。また、今年度は咲くやこの花館と連携し、区主催のイベント内において、植物の寄せ植え講習会を実施した。	①

番号	年月	外部評価意見 (区政会議委員よりいただいたご意見)	対応方針	分類
23	H29.6	ペーパーレス化が進んでいるが、広報紙の 内容をスマートフォン等で移動中にも閲覧で きるようにできないか。	広報紙はホームページ上でデジタルブックとしても掲載している。平成29年7月からは、フェイスブックやツイッターで、広報紙の発行及びデジタルブックで閲覧できる旨お知らせし、閲覧できるリンク先を掲載している。	1
24	H29.6	広報紙を掲示板のあちこちに貼ってもらったら助かる。	広報紙は区内商業施設等7か所で掲示を 行っている。また、区内61基の区広報板に 「つるみっ子だより」を掲示している。今後も 掲示場所等の拡大について検討していく。	1 2
25	H29.6	動画の作成を一般の人に募ってみてはどうか。	動画作品については、法的課題(肖像権、プライバシー権保護等)があるので、まずは、IT知識を有する職員を募り、PRする事業担当課とともに動画作成していきたい。	1
26	H29.6	SNSは情報発信量だけではイベントの認知 度向上にはつながらない。タイトルや内容に インパクトが必要ではないか。	専門家の意見も聞きながら、発信するタイミング、タイトル、ヴィジュアル(視覚的)にインパクトのある情報を発信していく。	1
27	H29.6	「つる魅力検定」の問題を、子どもたちに募集 することで子どもたちが検定に興味を持つの ではないか。	小学生を対象に問題を募集し、問題が採用された子どもに記念品を贈呈する。	1
28	H29.6	「つる魅力検定」(一般の部)を複数会場で実施してほしい。	新規事業につき実際の参加者数が未確定なため、今年度については1か所での開催としたい。	3
29	H29.6	「つる魅力検定」の認定証(例 つる魅力士認定)を作成してはどうか。	工夫を凝らした認定証等の作成を検討する。	1
30	H29.9	区の福祉事業の大部分を担っている区社協 と区役所の関係及び補完状況の確認と、区 社協は現在、事業等で地域に関わっている が、区役所もこれまで以上に地域と関わって いく必要があるのではないか。	区役所の地域活動支援課と保健福祉課で地域健康福祉戦略会議を設置し、まちづくりセンター・区社協・地域包括支援センターと情報共有・連携を図りながら事業実施をしていく。	1
31	H29.9	現行、単年度の動きとなっているが、福祉に 関しては、さまざまな課題や問題があるため 将来的な目標を定めて動く必要があるので はないか。	大阪市として、高齢者福祉計画、障がい者支援計画、地域福祉の計画等があり、3~5年ごとに見直しを行っている。鶴見区でも市の計画を踏まえつつ、区の実情にあった鶴見区地域保健福祉ヴィジョンの策定を進めているが、今後も地域の実情に沿った見直しを行いながら進めていきたい。	2
32	H29.9	老人会や地域、ネットワーク委員、ふれあい 員等が高齢化し、次の担い手がなかなかい ない。このままではせっかくの良い仕組みが 衰退し崩れてしまうため、区役所で担い手養 成のための講座のようなものができないか。	健康づくりや食育など各種講座を実施し、受講者が地域のボランティアとして活動する取組みを行っている。また、住民主体のネットワーク活動推進事業において、あいまちの周知啓発の講演会をはじめ、各種講習会など地域福祉活動の担い手育成等のための事業も行っており、引き続き有効な啓発や講座の開催などを検討していきたい。	1

番号	年月	外部評価意見 (区政会議委員よりいただいたご意見)	対応方針	分類
33	H29.9	健康づくりの取り組みは、健康な人にも参加してもらえるような企画が必要であり、継続してもらうためには、表彰制度や参加賞があるようなものが良いのではないか。	食育フェスタにレシピコンテスト等の企画を追加していきたい。また、「健康づくりポイント制度」等については、他都市や他区の取り組み事例を参考に検討する。	2 3
34	H29.9	家庭事情や家庭環境により、いろいろなしん どさを抱える家庭もある、今後より一層、保護 者と子どもに寄り添う家庭教育支援が必要に なってくるのではないか。	実施する予定であり、平成30年度は、学校・	1
35	H29.9 H29.12	トランシーバーやMCA無線機を地域に配備するだけでなく、運用マニュアルを示すとともに、地域が活用できるよう取り組んで欲しい。	月1回実施のMCA無線機訓練に加えトランシーバーの運用マニュアルを作成し訓練を行っていく。また、災害時だけでなく平時の防犯活動時の使用についても各種会議などで伝えていく。	1
36	H29.9	区役所職員の訓練実施時、地域防災リー ダー等自主防災組織と連携できるよう訓練内 容を工夫して欲しい。	平成30年1月17日に行う「大阪市震災総合訓練」は、大規模災害発生を想定したロールプレイングを実施するが、地域と連携した訓練内容となるよう検討する。	1
37	H29.9	防犯カメラについて、新規設置中心ではなく 耐用年数超えにより修理不能となったものに ついて、取替えを行うなどの対応が必要では ないか。	大阪市が行う子ども見守りカメラ設置も進められているため、区内の犯罪発生状況も勘案しながら、増設だけではなく、必要なところについては取替えも検討していく。	3
38	H29.9	防犯灯設置について、町会を通じて設置ができる事を行政から広く区民に周知して欲しい。	広報紙やホームページ等を活用し、防犯灯 設置補助制度について、広く区民に周知を行 う。	2
39	H29.9	イベント情報をインターネットで検索した場合に、検索結果に古い情報が表示される場合があるので、古い情報が表示されないようにすることはできないか。	広報紙のバックナンバーに掲載されている過去のイベント告知記事が検索キーワードに該当し、検索結果として表示されることがあるため、常に最新の情報が検索されるように、ホームページの更新に努める。	1)
40	H29.9	鶴見緑地等で実施しているイベントについて、同様の趣旨で実施しているものについてはコラボレーションすることも視野に入れて検討してはどうか。		① ②
41	H29.12	健康づくりには、喫煙や受動喫煙などの問題があるように思われる。たばこを止めると健康になるということを、広く周知してもらった方がよいのではないか。	平成29年度の区民まつりで、たばこの影響を 周知啓発する取り組みを行った。今後も、喫 煙者が禁煙の必要性を自覚し、実行に移す 動機づけとなる事業を実施する。	1 2
42	H29.12	地域共生社会を進めるためには、地域活動協議会と各福祉機関がどのように連携していくかを、区のヴィジョンに示す必要があるのではないか。		2

番号	年月	外部評価意見 (区政会議委員よりいただいたご意見)	対応方針	分類
43	H29.12	2025年問題で地域に時間に余裕のある人材が増えることが期待できる。今の要支援レベルの人を地域が支えることや地域を交えて進めることをもっと区のヴィジョンに入れるなど積極的なアプローチを考えてはどうか。	地域保健福祉ヴィジョンには地域、関係機関 との連携について示していきたい。	2
44	H29.12	地域ケア会議に参加し、地域の中で対応困難な住民を排除することよりも取り込んで一緒に暮らしていくことが大事だと最近改めて気づくことができた。引き続きアドバイス等お願いしたい。	地域包括支援センターをはじめ関係機関や 地域と連携し、地域福祉の推進に引き続き取 り組んでいく。	1
45	H29.12	長野県では、健康長寿をめざし食生活習慣を見直すことで、平均寿命がのびたという例もある。また、野菜を作るところから始めて、採れた野菜を使ってお料理をするというものがあればよいのではないか。	食生活改善に向け、レシピコンテストのテーマや野菜づくり実施について関係団体と検討していきたい。また、「わたしのおすすめレシピ」を広報紙等で情報提供していきたい。	2
46	H29.12	和歌山で健康体操の取組みにより医療費負担が減ったという事例もある。区社協で実施される介護の総合事業や町会単位の百歳体操など運動を取り入れた事業を積極的に実施していくべきだではないか。	地域で進めている百歳体操は実施箇所も増加傾向にあり、新しく始めたいという地域の要望もあるが、リーダーとなる人材が見つからないという課題があるため、地域の関係団体と協働し、担い手となる人材の育成を進めていきたい。	2
47	H29.12	われる中、相談の窓口が明確にあり、職員が	虐待案件については、こども相談センターや 鶴見警察とも連携しながら対応しているが、 さらに相談者に寄り添った対応に努め、関係 先とも連携を強めていきたい。	1
48	H29.12	子育て支援室は、区内にある地域の子育て サロンとも連携を図ってほしい。	区内の子育て支援施設関係者等と区役所職員による月1回の子育て支援連絡会等を開催し、区内にある子育て支援施設等と連携を図っている。また、地域の子育てサロンへ保健師や保育士が出向き、育児相談等を行っているが、さらに連携の強化に努めていきたい。	1
49	H29.12	鶴見緑地の茶室「むらさき亭」で開催するおもてなし茶会について、小学生や保護者が参加しやすい内容するなど生涯学習の認知度アップに努めることが必要ではないか。	おもてなし茶会にとどまらず、幅広い年代に 向けた学びを提供できるよう関係団体等と連 携を図りながら、生涯学習の推進と認知度 アップに努める。	1
50	H29.12	校長会や教育行政連絡会等で意見交換した 内容を区政会議の部会で報告してはどうか。		1
51	H29.12	地域内の小学校では防災訓練等を実施しているが、中学校で実施したことはない。また、訓練は地域単位で行っているが、実際災害が発生した場合、他地域からの避難者が想定されるため、その対応を含めた訓練を実施する必要があるのではないか。	災害発生時は中学校、高校も「災害時避難所」となるため、中学校、高校を使用した訓練も必要と考えている。防災訓練等の実施時には、隣接する地域が参加できるようにするなど、より実践的な訓練となるよう連携・工夫していく。	1

番号	年月	外部評価意見 (区政会議委員よりいただいたご意見)	対応方針	分類
52	H29.12	防犯一斉行動が形骸化している。また、地域 への周知も不十分であるため、実施方法等 検討していく必要があるのではないか。	各地域の防犯推進委員との会議で現状等の 把握を行い今後の実施方法などについて検 討していく。また、日頃からの子ども見守り活 動など地域が実施する防犯活動について広 く周知していく。	1
53	H29.12	青色防犯パトロールの実施時間が区役所と 地域で重なるため調整して欲しい。	地域で実施されている青色防犯パトロールの 日時・場所を勘案して効果的に実施する。	2
54	H29.12	災害時地域協力貢献事業所に対し、地域の 防災訓練への参加を求める等、日頃からの 連携を大切にすべきではないか。	災害時地域協力貢献事業所に対しアンケートを実施し、取りまとめ後は地域への情報提供するなど、災害時の活用方法について検討を行う。	1
55	H29.12	小学校などに設置されている防災行政無線 は聞こえにくかったり、不明瞭である。	過去に大阪市が調査を行い移設・増設を 行ったが、聞こえにくいスピーカー等について は現地調査のうえ、設置者である大阪市危 機管理室に伝えていく。	1
56	H29.12	鶴見区のヴィジョンには区の独自性が必要で はないか。	各地域の特性を検証しながら、区の独自施 策を含んだ内容になるよう検討していく。	2
57	H29.12		現行のビジョンと、改定後のヴィジョンの違い についても、わかりやすく説明できるよう工夫 していく。	1
58	H30.1	百歳体操を広めるためには、広報紙、ホームページ等での積極的な広報や区のイベント事業でのデモンストレーション等を実施し、広く周知していくことが必要ではないか。	チラシ等の広報媒体を活用し実施会場等を	1)
59	H30.1	百歳体操だけを実施するより、地域のふれあい喫茶や手芸教室等を合わせて開催する方が参加しやすいのではないか。		1 2
60	H30.1	生涯学習ルーム事業以外に、生涯学習の取組みを自主的に活発に取り組んでいるものについても、小学校を利用できるようにして欲しい。また、こうした生涯学習の取組みの活動発表の場が欲しい。	自主的な生涯学習活動の小学校利用については、取組みが様々な形で行われていることや、場所・スペースの制約といった課題があるので、今後の検討課題とさせていただく。ただし、自主的に運営されている生涯学習活動の発表の場については、区役所2階の区民ギャラリーのさらなる利用の促進を図る。また、区民センター等を利用した展示や舞台発表等の場所の提供についても幅広く検討していく。	2

番号	年月	外部評価意見 (区政会議委員よりいただいたご意見)	対応方針	分類
61	H30.1	生涯学習推進員連絡会が開催しているおもてなし茶会のポスターが1枚だけ地域の掲示板に貼られており、回覧は実施されていない。経費との兼ね合いもあるだろうが、枚数等をふやすなど、さらに周知する必要があるのではないか。	幅広い世代に参加いただくためにも、チラシ 等の増刷を検討するとともに、 引き続きホー ムページやフェイスブックを活用するなど積 極的な広報に努める。	2
62	H30.1	「子育ち」「親育ち」だけでなく、おじいさん、おばあさんなどあらゆる世代を含めて、昔遊びや知恵の伝承など、みんなで育ちあう取り組みも大切だと思う。	30年度に予定している家庭教育支援講座では、子どもの育ちを切れ目なく支え、核となる家庭を支援できるよう、学校・家庭・地域等と連携を図り進めていく予定であり、みんなで育ちあうことの大切さや、つながりづくりについても、その中で啓発できるよう工夫していきたい。ご意見をふまえ、取組み内容について検討していく。	2
63	H30.1	教育力や子育て力は家庭教育が基盤であるが、子どもに対してどう接していいのか悩む保護者も多く、ストレス耐性も弱くなってきており、学校現場も大変さを抱えているのが現状である。 生涯学習の観点や概念からの家庭教育の取組みは、重要で必要な取組みであると考える。	子どもが育つこと、また親自身が子育てを通じて成長すること、そんな「子育ち」「親育ち」を支え、核となる家庭を支援できるようなまなびの機会を、乳幼児期~学齢期~青年期と切れ目なく提供できるよう、また、区役所としての「家庭教育」の取組みとなるよう、実施内容を精査しながら他課連携や調整を進めていく。 また、必要とされる人に届く「家庭教育」の取組みとなるよう、学校・家庭・地域等との連携を図りながら、実施方法や内容について検討し進める。	2
64	H30.1	地域の防災訓練について、町会など身近な 単位で実施するのも大事ではないか。	各地域において小学校を利用した防災訓練が行われているが、地域防災リーダーの協力も仰ぎながら、訓練メニューの提示をするなど町会などでも防災の取組みを広めてもらえるよう支援していく。	1
65	H30.1	災害時地域貢献事業所制度と協力事業所について、広く周知し見える化をしてはどうか。また、地域の防災訓練への参加など、地域の防災訓練への参加など、地域との連携を図るべきではないか。	災害時地域協力貢献事業所については、現在ホームページで事業所名等の公表や、ステッカーの配付を実施しているが、今後作成する防災マップへ事業所名称等を記載するなど、協力いただいている事業所がよりわかりやすくなるよう工夫するとともに、個別具体の協力内容についても、公表の同意を得た事業所については公表していく。また、制度を幅広く周知することにより、協力事業所数の増加を図る。さらに、地域防災訓練への参加・協力についても働きかけを行い共助の取組みを進めていく。	2
66	H30.1	百歳体操などを広報紙1〜2面に特集記事と して掲載すれば効果的に周知できるのでは ないか。	広報紙は、限られた紙面の中で掲載すべき 情報を選択し紙面づくりを行っているが、特 集記事については、掲載場所を含めて検討 する。	1) 2

番号		外部評価意見 (区政会議委員よりいただいたご意見)	対応方針	分類
67	H30.1		子どもの割合が多いということを鶴見区の強味ととらえ、子ども達が将来さまざまな分野で参画できる社会をめざした鶴見区将来ヴィジョンとなるよう素案を修正する。	1

※分類

- ①当年度(29年度)において対応 ②30年度運営方針に反映または30年度に対応予定 ③30年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可 ⑤その他